

令和9(2027)年度 入学者選抜要項

一般選抜（前期日程）

一般選抜（後期日程）

総合型選抜

私費外国人留学生入試



弘 前 大 学

HIROSAKI UNIVERSITY

令和8(2026)年7月

一般選抜及び総合型選抜はインターネット出願となります。

出願の際は、今後公表される各募集要項を必ず確認のうえ手続きしてください。

〈 目 次 〉

■令和9（2027）年度入学者選抜方法等の主な変更点について……………	1
■弘前大学における三つの方針（ポリシー）……………	7
■弘前大学の入学者選抜について……………	9
■募集人員……………	13
■入学試験日程……………	14
I. 一般選抜……………	
1. 一般選抜の実施方法等……………	15
2. 出願資格……………	16
3. 出願手続……………	17
4. 試験実施教科・科目等に関する留意事項……………	18
5. 各学部 of 試験実施教科・科目及び配点等……………	21
6. 教科・科目に係る個別テストの評価方法等……………	26
7. 試験場……………	30
II. 総合型選抜……………	
1. 総合型選抜の実施方法等……………	31
2. 総合型選抜 I……………	33
2-1 人文社会科学部……………	34
2-2 教育学部……………	36
2-3 理工学部……………	39
2-4 農学生命科学部……………	41
3. 総合型選抜 II……………	43
3-1 教育学部……………	44
3-2 医学部医学科……………	48
3-3 医学部保健学科……………	50
III. 私費外国人留学生入試……………	52
IV. 共通事項……………	
1. 入学検定料……………	60
2. 入学検定料の免除について……………	60
3. 障害等のある入学志願者の事前相談について……………	60
4. 合格発表について……………	61
5. 入学手続について……………	61
6. 欠員補充について……………	61
7. 入学試験個人成績の開示について……………	62
8. 個人情報の取扱いについて……………	62
9. 募集要項等の公表について……………	62
10. 「こども性暴力防止法（学校設置者等及び 民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の 防止等のための措置に関する法律）」について……………	63
V. 各学部 of 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）……………	64
■弘前大学キャンパス略図……………	82

令和9（2027）年度入学者選抜方法等の主な変更点について

令和8年7月 弘前大学

掲載している内容は現時点のものであり、今後発行する各種募集要項で内容をご確認願います。

記

1. 総合型選抜の試験日程変更

総合型選抜の試験日程を、次の日程に後ろ倒しして実施します。

区分	出願期間	試験実施日	合格発表日
総合型選抜Ⅰ	9月24日～10月1日	10月31日・11月1日	11月12日
総合型選抜Ⅱ			2月5日

2. 各学部・学科の主な変更点

◆人文社会科学部◆

一般選抜における大学入学共通テストの利用教科・科目について次のとおり一部変更します。

〔令和8年度入試〕

教科	科目名等
地歴	「地理総合、地理探究」、 「歴史総合、日本史探究」、 「歴史総合、世界史探究」、 「地理総合／歴史総合／公共」から1
公民	「公共、倫理」、「公共、政治・経済」、 「地理総合／歴史総合／公共（再掲）」から1



〔令和9年度入試〕

教科	科目名等
地歴	「地理総合、地理探究」、 「歴史総合、日本史探究」、 「歴史総合、世界史探究」、 「地理総合／歴史総合／公共」から2
公民	「公共、倫理」、「公共、政治・経済」、 「地理総合／歴史総合／公共（再掲）」

◆教育学部◆

募集人員について次のとおり一部変更します。

1. 学校教育教員養成課程初等中等教育専攻小学校コースの総合型選抜Ⅱに「地域志向教員枠」を導入します。

「地域志向教員枠」導入に伴い、学校教育教員養成課程初等中等教育専攻中学校コース技術専修（総合型選抜Ⅰ）及び家庭科専修（一般選抜前期日程）の募集を停止します。なお、募集停止後も中学校技術・家庭科の教職課程認定を維持し、現行の技術サブコースと家庭科サブコースを統合して技術・家庭科サブコースを新設します。（変更の詳細は後述）

〔令和8年度入試〕

	総合型選抜Ⅱ
小学校コース	25人



〔令和9年度入試〕

	総合型選抜Ⅱ
小学校コース	地域志向教員枠 5人 一般枠 20人

	総合型選抜Ⅰ
技術専修	3人



募集停止

	一般選抜前期日程
家庭科専修	3人



募集停止

2. 学校教育教員養成課程初等中等教育専攻中学校コース音楽専修・美術専修における総合型選抜Ⅰについて、専修ごとに募集していたものを、2専修で一括して募集を行うものに変更します。

〔令和8年度入試〕

	総合型選抜Ⅰ
音楽専修	3人
美術専修	3人



〔令和9年度入試〕

	総合型選抜Ⅰ
音楽専修	6人
美術専修	

※音楽専修・美術専修でそれぞれ個別に選抜を実施し、音楽専修3人、美術専修3人を合格者数の目安とします。
なお、志願状況により内訳が増減することがあります。

3. 学校教育教員養成課程特別支援教育専攻における一般選抜後期日程（募集人員2人）及び総合型選抜Ⅰ（同3人）を廃止し、代わって総合型選抜Ⅱ（同5人）を新設します。

〔令和8年度入試〕

	一般選抜前期日程	一般選抜後期日程	総合型選抜Ⅰ	総合型選抜Ⅱ
特別支援教育専攻	5人	2人	3人	



〔令和9年度入試〕

	一般選抜前期日程	一般選抜後期日程	総合型選抜Ⅰ	総合型選抜Ⅱ
特別支援教育専攻	5人			5人

学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース

教育学部学校教育教員養成課程初等中等教育専攻小学校コースにおいて、令和8年度に実施する令和9年度入学者選抜（総合型選抜Ⅱ）から、募集人員25人のうち、5人を地域志向教員枠とし、次のとおり実施します。

なお、小学校コースの総合型選抜Ⅱ地域志向教員枠以外（以下「一般枠」）の入学試験については、変更しません。

地域志向教員枠で入学した者については、地域の学校教育現場からの要請に応えるため複数免許取得を卒業要件とし、小学校教諭一種免許状に加え、中学校教諭一種若しくは二種免許状（技術）又は中学校教諭一種若しくは二種免許状（家庭）の取得を必須とします。また、入学後は技術・家庭科サブコースに所属します。

●募集人員

地域志向教員枠5人（総合型選抜Ⅱ）

●出願要件

次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者

- (1) 弘前大学教育学部での勉学を強く希望する者
- (2) 本専攻のアドミッション・ポリシーを十分理解し、本専攻への志望動機が明確である者
- (3) 高等学校若しくは中等教育学校を令和3年4月以降に卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者
- (4) 本学の指定した令和9年度大学入学共通テストの教科・科目を受験する者
- (5) 青森県採用教員として教職を目指す強い意志がある者
※出身高校、出身地等地域の制限は設けない。
- (6) 地域教育課題の解決に意欲的に取り組もうとする者

●選抜方法等

- ・大学入学共通テストの得点、集団討論、個人面接及び出願書類（志望理由書及び地域志向教員志望理由書）の評価を総合して選抜を行う。
- ・個人面接は、一般枠と同内容の面接に加え、地域志向教員枠独自の面接を行う。
- ・志望理由書は、一般枠と同内容、同基準で評価する。
- ・地域志向教員志望理由書は、地域教育課題についての問題意識、地域での活動履歴等の記述に基づき、地域志向教員としての適性を評価する。

●配点・合否判定基準

- ・地域志向教員枠

大学入学 共通テスト	集団討論	個人面接	出願書類	合計
300	200	300 ^{※1}	100 ^{※2}	900

※1 個人面接300点のうち、100点は地域志向教員枠独自の面接の得点。

※2 出願書類100点のうち、50点は地域志向教員志望理由書の得点。

- ・一般枠

大学入学 共通テスト	集団討論	個人面接	出願書類	合計
300	200	200	50	750

- 「地域志向教員枠」と「一般枠」の取扱い

- (1) 「地域志向教員枠」受験者のうち合計点の点数順に上位5人を「地域志向教員枠」合格者とする。
- (2) (1)の結果、「地域志向教員枠」において、不合格になった者を「一般枠」に組み入れる。すなわち、「一般枠」と「地域志向教員枠（のうち不合格者）」を合わせて、上位20人を「一般枠」合格者とする。
- (3) (2)の合計点は、「地域志向教員枠」独自の出願書類（地域志向教員志望理由書）及び面接の加点を控除し、「一般枠」の配点により計算する。

●入学後

- 「地域志向教員養成プログラム」（新設予定）の履修が必須。
- 技術・家庭科サブコースに所属。
※プログラム及びサブコースの詳細は、本学教育学部ホームページにて公表を予定しています。

●卒業要件

小学校教諭一種免許状に加え、中学校教諭一種若しくは二種免許状（技術）又は中学校教諭一種若しくは二種免許状（家庭）の取得。

●その他

地域志向教員枠で入学し、「地域志向教員養成プログラム」を修了し、卒業（見込）となった者のうち、大学が推薦する者は、青森県公立学校教員採用候補者選考試験（小学校教諭）の第一次試験における一部が免除される見通し。

総合型選抜Ⅰにおける出願書類について次のとおり一部変更します。

学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修）

学校教育教員養成課程初等中等教育専攻中学校コースの音楽専修・美術専修・保健体育専修における総合型選抜Ⅰの出願書類について、あらたに「志望理由書」の提出を求め、面接の参考資料とします。

〔令和8年度入試〕

	出願書類	
	調査書	志望理由書
音楽専修	◎	×
美術専修	◎	×
保健体育専修	◎	×



〔令和9年度入試〕

	出願書類	
	調査書	志望理由書
音楽専修	◎	◎
美術専修	◎	◎
保健体育専修	◎	◎

◆医学部医学科◆

一般選抜における教科・科目に係る個別テスト等の配点について次のとおり一部変更します。

〔令和8年度入試〕

「数学」300点、「外国語（英語）」300点、「面接」300点

計900点満点



〔令和9年度入試〕

「数学」300点、「外国語（英語）」300点、「面接」点数化しない

計600点満点

個人面接について、引き続き実施しますが、点数化はせず段階評価とします。また、面接の評価が低い場合は不合格となる場合があります。

総合型選抜Ⅱにおける選抜方法等について次のとおり一部変更します。

【出願要件のうち一部基準の廃止】

〔令和8年度入試〕

「人物、学力ともに優れ、高等学校等における調査書の全体の学修成績の状況（評定平均値）が4.3以上の者」



〔令和9年度入試〕

上記評定平均値に関する出願要件を廃止します。

【選抜方法の一部変更】

〔令和8年度入試〕

「個人面接」及び「ケーススタディの自学自習」



〔令和9年度入試〕

「個人面接」及び「総合論述」

「総合論述」

●選抜方法

与えられた資料の内容を的確に捉え、課題を見出し、自身の考えの思考過程及び最終的結論に関して論述させる。自身の考えを論理的に構築・表現する力が求められる。

●評価方法

資料の理解・解析・分析を通じて、課題解決に必要な論理的思考力と問題発見能力の他、医学分野における資質を以下の観点に基づき総合的・多角的に評価する。

1. 資料理解力：資料の本質を捉え、的確に解析する能力。
2. 問題発見能力：与えられた情報や状況から課題を見出し、それを適切に定義する能力。
3. 論理的思考力：課題に対する考えを論理的に構成する能力。
4. 分析力：資料や課題の要点を整理し、深く考察する能力。
5. 表現力：明確かつ説得力のある形で自身の考えを示す能力。

【合否判定基準の一部変更】

〔令和8年度入試〕

「青森県内枠」と「北海道・東北枠」の取扱い

- (1) 「青森県内枠」受験者のうち合計点の点数順に上位27人を「青森県内枠」合格者とする。
- (2) (1)の結果,「青森県内枠」において, 不合格となった者を「北海道・東北枠」に組み入れる。すなわち,「北海道・東北枠」と「青森県内枠(のうち不合格者)」を合わせて, 上位15人を「北海道・東北枠」合格者とする。



〔令和9年度入試〕

「青森県内枠」と「北海道・東北枠」の取扱い

- (1) 「青森県内枠」受験者のうち合計点の点数順に上位27人を「青森県内枠」合格者とする。
- (2) 「北海道・東北枠」受験者のうち合計点の点数順に上位15人を「北海道・東北枠」合格者とする。

〔令和8年度入試〕

いずれか1科目でも得点が著しく低い場合, 不合格となることがある。



〔令和9年度入試〕

大学入学共通テストの合計点, 個人面接の得点及び総合論述の得点のうち, いずれかの得点が著しく低い場合, 不合格になることがある。

■ 弘前大学における三つの方針（ポリシー）

1. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

弘前大学は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めています。

- － 入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- － 自立した個人として、または多様な人々と協働して、国際社会や地域社会に参画していこうとする行動力
- － 生涯にわたって知的好奇心を持ち続け、知的・人格的に成長していこうとする意欲

上記の学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的に評価する大学入試を実施します。

■解説：入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

弘前大学の入学者受入れの方針の「学力」「行動力」「意欲」といったキーワードには、入学時に学生が身に付けておくべき力と卒業時に学生が身に付けておくべき力の2つが含まれています。その理由は、大学教育を効果的に実践し、学生を主体的で能動的な知的探究者として社会に送り出していくためには、学生が入学前に身に付けて来た学力の芽を大きく育て、花開かせることが重要だと考えているからです。

学生が入学時に身に付けておくべき力とは、「学力の3要素」です。学力の3要素は、初等中等教育において身に付けるべき学力です。その内容は、①基礎的な知識・技能、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、となっています。

また、卒業時に学生が身に付けるべき力とは、弘前大学の「卒業認定・学位授与の方針」や「教育課程編成・実施の方針」で掲げている「見通す力」「解決していく力」「学び続ける力」です。詳細は本学ホームページの該当部分を読んでみてください。

「学力」「行動力」「意欲」には、弘前大学の教育目的が内包されているため、「学力」「行動力」「意欲」は「学力の3要素」と完全一致しているわけではありません。ただし、教育理念の点で、両者は一致しています。よって、弘前大学の入学者選抜では、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価します。

実際の入試の内容や方法は、学部や学科、あるいは入試形態によって異なります。詳細は各学部の入学者受入れの方針、入学者選抜要項・募集要項を確認してください。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

弘前大学は、学生の主体的・能動的な知的探究をととして、学生の知性ならびに人間性・社会性を育む教育課程を編成・実施します。

(1) 教養教育：教養教育は学生の探究の第一歩です。

－見通す力

学生に人類の叡智たる諸学問の構造を俯瞰する機会を提供することで、複眼的思考および多元的価値観に立脚した省察を促します。これにより、国際社会や地域社会が抱える複雑な問題の本質を見通す力を養います。

－解決していく力

学生に国際社会や地域社会の実情や問題の複雑さに触れる機会を提供します。これにより、学生が個人およびチームとして問題の解決に挑戦できるよう導いていきます。

(2) 専門教育：専門教育は、学生の探究の集大成です。

－見通す力

学生に専門知識を体系的に教授することで、自然や社会への洞察を深化させます。

－解決していく力

学生に、専門知識を国際社会や地域社会の問題解決に応用したり、高度な学識を活かして学術的問題の解決に取り組んだりする機会を提供します。これに加えて専門家としての見識と職業倫理も、実践をととして培います。

(3) 学士課程教育の再構築：学生の探究の過程こそが新しい学士課程の本質です。

－学び続ける力

卒業後、学生が国際社会や地域社会の一員として充実した生活を送るとともに、より良い社会の実現に貢献していくことができるように、学生の探究の習慣を確立します。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

弘前大学は、変化が激しく、将来予測が困難な時代にあってこそ力を発揮できる主体的・能動的な探究者を育み、高い倫理観をもって知的探究に取り組むための三つの力を身に付けた者に対して学位を授与します。

- － 学際的な教養と高度な専門性を身に付け、学術的観点から自然や社会を見通す力
- － 学術的な知識を具体的な実践へ移し、国際社会や地域社会の問題を解決していく力
- － 常に新しい問題に挑戦し続け、生涯にわたって自らを成長させていく学び続ける力

*カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの解説は、ホームページでご覧いただけます。

<https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/policy.html>

■ 弘前大学の入学者選抜について

弘前大学では、入学時に身に付けておくべき「学力の3要素」を「学力」「行動力」「意欲」というキーワードを用いてアドミッション・ポリシーを定めています。弘前大学の入学者選抜は「一般選抜」、「総合型選抜」及び「私費外国人留学生入試」により実施し、本学及び各学部がアドミッション・ポリシーで明記している入学志願者に求める「学力」「行動力」「意欲」を多面的・総合的に評価します。

一般選抜

一般選抜は、大学入学共通テストと各学部が課す教科・科目に係る個別テスト等の両方を用い、大学での学びに必要な基礎学力に重点を置きつつ、「行動力」や「意欲」を含めた総合評価による選抜を実施します。

大学入学共通テストでは、「学力」のうち主として高等学校等で身に付けた「基礎的な知識・技能」を評価します。

各学部が課す教科・科目に係る個別テスト等では、教科に関する筆記試験においては記述式問題に重点を置き、「学力」に定義される「思考力・判断力・表現力」を評価します。一部の学部においては、小論文試験によって「思考力・判断力・表現力」を評価します。また、面接試験や出願書類により、「学力」のみならず「行動力」や「意欲」を評価します。試験の内容は、学部・学科等により異なります。

総合型選抜

総合型選抜は、大学入学共通テストを課さない総合型選抜Ⅰと大学入学共通テストを課す総合型選抜Ⅱにより実施します。

総合型選抜Ⅰでは、小論文試験、実技試験、個人面接、講義に関するレポート等、多様な試験によって「学力」「行動力」「意欲」を多面的に評価します。試験の内容は、学部・学科等により異なります。総合型選抜Ⅰでは、大学入学共通テストの成績を合否判定には利用しませんが、勉学意欲継続の観点から、合格者は大学入学共通テストを必ず受験してください。

総合型選抜Ⅱでは、大学入学共通テストにより高等学校等で身に付けた「基礎的な知識・技能」を評価するとともに、小論文試験、集団討論や個人面接等により「学力」「行動力」「意欲」を総合評価します。試験の内容は、学部・学科等により異なります。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本国籍を有しない方を対象に、日本留学試験の成績と各学部が課す教科・科目に係る個別テスト、小論文試験、面接試験等によって「学力」「行動力」「意欲」を評価します。試験の内容は、学部・学科等により異なります。なお、出願要件として「日本語能力試験（JLPT）」のCEFRレベルがB2以上であることが必要となります。

一般選抜

一般選抜は、大学入学共通テスト及び下記の選抜方法により選抜を行います。

学 部	学科・課程等			前 期 日 程					後 期 日 程						
				個 教 科 別 ・ 科 目 に 係 る テ ス ト	小 論 文	面 接	出願書類(※1)		2 段 階 選 抜 (※2)	個 教 科 別 ・ 科 目 に 係 る テ ス ト	小 論 文	面 接	出願書類(※1)		
							調 査 書	志 望 理 由 書					調 査 書	志 望 理 由 書	
人文社会 科学部	文 化 創 生 課 程			●	×	×	○	×	×	×	●	×	○	×	
	社 会 経 営 課 程			●	×	×	○	×	×	×	●	×	○	×	
教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育専攻	小 学 校 コ ー ス	●	×	●	◎	×	×	×	×	●	◎	×	
			国 語 専 修	●	×	●	◎	×	×						
		中学校コース	社 会 専 修	●	×	●	◎	×	×						
			数 学 専 修	●	×	●	◎	×	×						
			理 科 専 修	●	×	●	◎	×	×						
			音 楽 専 修												
			美 術 専 修												
			保健体育専修												
			英 語 専 修	●	×	●	◎	×	×						
		特別支援教育専攻	●	×	●	◎	×	×							
	養護教諭養成課程		●	×	●	◎	×	×							
医学部	保健学科	医 学 科		●	×	●	◎	◎	●						
			看 護 学 専 攻	●	●	×	○	×	×						
			放射線技術科学専攻	●	×	×	○	×	×						
			検査技術科学専攻	●	×	×	○	×	×						
			理学療法学専攻	●	●	×	○	×	×						
			作業療法学専攻	●	●	×	○	×	×						
		心 理 支 援 科 学 科	●	×	×	○	●	×							
理工学部	数 物 科 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	物 質 創 成 化 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	地 球 環 境 防 災 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	電 子 情 報 工 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	機 械 科 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	自然エネルギー学科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
農学生命 科学部	生 物 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	分 子 生 命 科 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	食 料 資 源 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	国 際 園 芸 農 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		
	地 域 環 境 工 学 科		●	×	×	○	×	×	●	×	×	○	×		

(※1) ●医学部心理支援科学科では、志望理由書を段階評価します。

◎を付した学部等では、「出願書類」を面接の参考資料とします。

○を付した学部等では、「調査書」は評価しませんが、提出は必須です。

(※2) 医学部医学科の2段階選抜の詳細は、15ページの「医学部医学科の2段階選抜の取扱い」を参照してください。

総合型選抜

総合型選抜Ⅰは、大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テストを免除して、下記の選抜方法により選抜を行います。

総合型選抜Ⅱは、大学入学共通テストを課し、教科・科目に係る個別テストは免除して、下記の選抜方法により選抜を行います。

学 部	学科・課程等			総合型選抜Ⅰ						総合型選抜Ⅱ							
				小 論 文	レ 講 義 ポ ー ト フ ォ ト び	面 接 (※3)	集 団 討 論	実 技 (※3)	出願書類			小 論 文	面 接 (※4)	集 団 討 論	総 合 論 述	出願書類	
									調 査 書 (※1)	学習計画書 (※2)	志望理由書					調 査 書 (※1)	志望理由書 (※2)
人文社会 科学部	文 化 創 生 課 程			●	×	●	×	×	●	●							
	社 会 経 営 課 程			●	×	●	×	×	●	●							
教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育専攻	小 学 校 コ ー ス							×	●	●	×	◎	●		
			中 学 校 コ ー ス							国 語 専 修							
		社 会 専 修															
		数 学 専 修															
		理 科 専 修															
		音 楽 専 修		×	×	●	×	●	◎	◎							
		美 術 専 修		×	×	●	×	●	◎	◎							
		保健体育専修		×	×	●	×	●	◎	◎							
		英 語 専 修															
	特別支援教育専攻	×							●	●	×	◎	●				
養護教諭養成課程									×	●	●	×	◎	●			
									×	●	●	×	◎	●			
医 学 部	保健学科	医 学 科							×	●	×	●	◎	◎			
		看 護 学 専 攻							放射線技術科学専攻	●	●	×	×	●	●		
									検査技術科学専攻	●	●	×	×	●	●		
									理学療法学専攻	●	●	×	×	●	●		
									作業療法学専攻	●	●	×	×	●	●		
									心 理 支 援 科 学 科								
理工学部	数 物 科 学 科		×	●	●	×	×	◎	◎								
	物 質 創 成 化 学 科		×	●	●	×	×	◎	◎								
	地 球 環 境 防 災 学 科		×	●	●	×	×	◎	◎								
	電 子 情 報 工 学 科		×	●	●	×	×	◎	◎								
	機 械 科 学 科		×	●	●	×	×	◎	◎								
	自然エネルギー学科		×	●	●	×	×	◎	◎								
農学生命 科学部	生 物 学 科		●	×	●	×	×	◎	◎								
	分 子 生 命 科 学 科		●	×	●	×	×	◎	◎								
	食 料 資 源 学 科		●	×	●	×	×	◎	◎								
	国 際 園 芸 農 学 科		●	×	●	×	×	◎	◎								
	地 域 環 境 工 学 科		●	×	●	×	×	◎	◎								

(※1) ●を付した学部等では、「調査書」を評価し、面接の参考資料とします。

◎を付した学部等では、「調査書」を面接の参考資料とします。

(※2) 人文社会科学部では、「学習計画書」を評価し、面接の参考資料とします。

教育学部（小学校コース（地域志向教員枠））では、「志望理由書」及び「地域志向教員志望理由書」を評価し、面接の参考資料とします。

●を付した学部等（人文社会科学部及び教育学部（小学校コース（地域志向教員枠））以外）では、「志望理由書」を評価し、面接の参考資料とします。

◎を付した学部等では、「志望理由書」を面接の参考資料とします。

(※3) 教育学部（保健体育専修）では、「運動歴調査書」を評価して実技の得点に含めるとともに、面接の参考資料とします。

(※4) 教育学部（小学校コース（地域志向教員枠））では、一般枠と同内容の面接に加え、地域志向教員枠独自の内容の面接を行います。

に
入
学
者
選
抜

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試は、日本留学試験及び下記の選抜方法により選抜を行います。

なお、日本語能力の基準として、「日本語能力試験（JLPT）」のCEFRレベルがB2以上であることを出願要件とします。

学 部	学科・課程等			日本留学試験(※)	教科・科目に係る 個別 テ ス ト	小 論 文	面 接	実 技
人文社会科学部	文 化 創 生 課 程			○	×	●	●	×
	社 会 経 営 課 程			○	×	●	●	×
教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育専攻	小 学 校 コ ー ス	○	×	●	●	×
			中 学 校 コ ー ス	国 語 専 修	○	×	●	●
		社 会 専 修		○	×	●	●	×
		数 学 専 修		○	×	●	●	×
		理 科 専 修		○	×	●	●	×
		音 楽 専 修		○	×	×	●	●
		美 術 専 修		○	×	×	●	●
		保健体育専修		○	×	●	●	×
		英 語 専 修		○	×	●	●	×
		特別支援教育専攻	○	×	●	●	×	
養護教諭養成課程			○	×	●	●	×	
医 学 部	医 学 科		●	●	●	●	×	
	保健学科	看 護 学 専 攻	●	×	●	●	×	
		放射線技術科学専攻	●	×	●	●	×	
		検査技術科学専攻	●	×	●	●	×	
		理学療法学専攻	●	×	●	●	×	
		作業療法学専攻	●	×	●	●	×	
	心 理 支 援 科 学 科		●	×	●	●	×	
理工学部	数 物 科 学 科		○	×	×	●	×	
	物 質 創 成 化 学 科		○	×	×	●	×	
	地 球 環 境 防 災 学 科		○	×	×	●	×	
	電 子 情 報 工 学 科		○	×	×	●	×	
	機 械 科 学 科		○	×	×	●	×	
	自然エネルギー学科		○	×	×	●	×	
農学生命科学部	生 物 学 科		○	×	●	●	×	
	分 子 生 命 科 学 科		○	×	●	●	×	
	食 料 資 源 学 科		○	×	●	●	×	
	国 際 園 芸 農 学 科		○	×	●	●	×	
	地 域 環 境 工 学 科		○	×	●	●	×	

(※) ●を付した学部等では、日本留学試験の成績を段階評価します。

○を付した学部等では、日本留学試験の成績を総合判定の資料とします。

理工学部では、受験を要する科目の総得点が満点の70%（850点満点中595点）以上であることを出願要件とします。

■ 募集人員

学 部	学科・課程等			入学定員	募 集 人 員				私費 外国人 留学生 入試	
					一般選抜		総合型選抜(※1)			
					前期日程	後期日程	I	II		
人文社会 科学部	文 化 創 生 課 程			110	60	15	(※3) 35		若干名	
	社 会 経 営 課 程			155	(※2)〔国 数	55 35	20		(※4) 45	若干名
	計			265	150	35	80			
教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育専攻	小 学 校 コ ー ス		80	35	20	地域志向教員枠 5 一般枠 20	若干名	
			中学校コース	国 語 専 修	7				若干名	
		社 会 専 修		7	若干名					
		数 学 専 修		7	若干名					
		理 科 専 修		7	若干名					
		音 楽 専 修			(※5) 6				若干名	
		美 術 専 修							若干名	
		保健体育専修							若干名	
		英 語 専 修		5	5				若干名	
		特別支援教育専攻	10	5	5		若干名			
	養護教諭養成課程	20	14	6	若干名					
	計			154	87	20	11	36		
医 学 部		医 学 科		(※11) 85 【予定】	青森県定着枠 8 【予定】 一般枠 35 【予定】			青森県内枠 27 【予定】 北海道・東北枠 15 【予定】	若干名	
		保健 学科	看 護 学 専 攻	80	50			30	若干名	
	放射線技術科学専攻		40	20	20			若干名		
	検査技術科学専攻		40	20	20			若干名		
	理学療法学専攻		20	12	8			若干名		
	作業療法学専攻		20	10	10			若干名		
	小計		200	112	88					
	心 理 支 援 科 学 科		10	10				若干名		
	計			295	165				130	
	理工学部	数 物 科 学 科		78	(※6)〔数 数理			19 19	(※6)〔数 理	6 10
物 質 創 成 化 学 科		52	26		10		16	若干名		
地 球 環 境 防 災 学 科		65	30		15		20	若干名		
電 子 情 報 工 学 科		55	29		9		(※7) 17	若干名		
機 械 科 学 科		80	36		20		(※8) 24	若干名		
自然エネルギー学科		30	10		11		9	若干名		
計			360	169	81	110				
農学生命 科学部	生 物 学 科		40	23		5		12	若干名	
	分 子 生 命 科 学 科		40	20		8		12	若干名	
	食 料 資 源 学 科		55	27		7		21	若干名	
	国 際 園 芸 農 学 科		50	27		8		(※9) 15	若干名	
	地 域 環 境 工 学 科		30	16		5		(※10) 9	若干名	
	計			215	113	33	69			
合 計			1,289	684	169	270	166			

- (※1) 「総合型選抜Ⅰ」は大学入学共通テストを課さないものであり、「総合型選抜Ⅱ」は大学入学共通テストを課すものです。
- (※2) 人文社会科学部「一般選抜(前期日程)」の「国」は教科・科目に係る個別テストにおける国語選択者、「数」は数学選択者の募集人員です。
- (※3) 人文社会科学部文化創生課程「総合型選抜Ⅰ」の募集人員35人には、国際バカロレア枠3人を含みます。
- (※4) 人文社会科学部社会経営課程「総合型選抜Ⅰ」の募集人員45人には、専門高校枠(高等学校等の商業又は情報に関する学科、総合学科(商業又は情報の単位を20単位以上修得した者))8人を含みます。
- (※5) 教育学部音楽専修・美術専修でそれぞれ個別に選抜を実施し、音楽専修3人、美術専修3人を合格者数の目安とします。
なお、志願状況により内訳が増減することがあります。
- (※6) 理工学部「一般選抜」の「数」は教科・科目に係る個別テストにおける数学選択者、「数理」は数学及び理科選択者、「理」は理科選択者の募集人員です。
- (※7) 理工学部電子情報工学科「総合型選抜Ⅰ」の募集人員17人には、専門高校枠(高等学校等(高等専門学校を含む)の工業、商業に関する学科、又は高等学校の総合学科)4人を含みます。
- (※8) 理工学部機械工学科「総合型選抜Ⅰ」の募集人員24人には、専門高校枠(高等学校等(高等専門学校を含む)の工業に関する学科)2人を含みます。
- (※9) 農学生命科学部国際園芸農学科「総合型選抜Ⅰ」の募集人員15人には、専門高校枠(高等学校等(高等専門学校を含む)の農業、林業、水産、工業、商業、情報に関する学科)4人を含みます。
- (※10) 農学生命科学部地域環境工学科「総合型選抜Ⅰ」の募集人員9人には、専門高校枠(高等学校等(高等専門学校を含む)の農業、工業に関する学科)3人を含みます。
- (※11) 医学部医学科の募集人員は予定であり、変更する場合があります。
- (注) 総合型選抜の合格者が募集人員に満たない場合の欠員は、「一般選抜(前期日程)」の募集人員に加えます。

■ 入学試験日程

一 般 選 抜

実施学部等			日程	インターネット出願登録 及び入学検定料払込期間	出願書類 受付期間	試験実施日	合格者発表日	入学手続期限	
一般選抜 (前期日程)	人 文 社 会 科 学 部		1 月21日(木) ～ 2月3日(水)	1 月25日(月) ～ 2月3日(水)	2 月25日(木) 2 月25日(木) 及び26日(金) 2 月25日(木)	2 月25日(木)	3 月 6 日(土)	3 月15日(月) まで	
	教 育 学 部								
	医 学 部	医 学 科							
		保 健 学 科							
		心 理 支 援 科 学 科							
	理 工 学 部								
農 学 生 命 科 学 部									
一般選抜 (後期日程)	人 文 社 会 科 学 部		1 月21日(木) ～ 2月3日(水)	1 月25日(月) ～ 2月3日(水)	2 月25日(木)	3 月12日(金)	3 月20日(土)	3 月27日(土) まで	
	教 育 学 部								
	理 工 学 部								
	農 学 生 命 科 学 部								

総 合 型 選 抜

実施学部等		日程	インターネット出願登録 及び入学検定料払込期間	出願書類 受付期間	試験実施日	合格者発表日	入学手続期限
総合型選抜Ⅰ	人 文 社 会 科 学 部 (文 化 創 生 課 程)	9 月21日(月) ～ 10月 1 日(木)	9 月24日(木) ～ 10月 1 日(木)	10月31日(土)	11月12日(木)	2 月17日(水) まで	
	人 文 社 会 科 学 部 (社 会 経 営 課 程)			11月 1 日(日)			
	教 育 学 部 (音 楽 専 修, 美 術 専 修)			10月31日(土)			
	教 育 学 部 (保 健 体 育 専 修)			10月31日(土) 及び 11月 1 日(日)			
	理 工 学 部			10月31日(土)			
	農 学 生 命 科 学 部			11月 1 日(日)			
総合型選抜Ⅱ	教 育 学 部 (小学校コース, 特別支援教育専攻, 養護教諭養成課程)			10月31日(土) 及び 11月 1 日(日)	2 月 5 日(金)		
	医 学 部 医 学 科						
	医 学 部 保 健 学 科						

私費外国人留学生入試

実施学部等		日程	出願書類 受付期間	試験実施日	合格者発表日	入学手続期限
全 学 部			1 月 25 日 (月) ～ 2 月 3 日 (水)	2 月 25 日 (木)	3 月 6 日 (土)	3 月 15 日 (月) まで

入 学 時 期	令和 9 (2027) 年 4 月
---------	-------------------

I. 一般選抜

1. 一般選抜の実施方法等

一般選抜では、「前期日程」及び「後期日程」による「分離分割方式」で教科・科目に係る個別テストを実施します。ただし、教育学部（小学校コースを除く）及び医学部では、「後期日程」での募集はしません。

1-1. 他大学及び本学学部間の併願

志願者は、分離分割方式で入学試験を行う国公立大学のうち、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの合計2つの大学・学部に出願することができます。したがって、「前期－後期」の併願は認められますが、「前期－前期」、「後期－後期」の併願は認められません。

また、本学学部間においても、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの合計2つの学部又は同一学部の学科・課程等に併願することができます。

なお、併願を希望する場合は、それぞれに入学検定料を納め、出願書類を提出しなければなりません。

1-2. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、令和9年度大学入学共通テストの成績と、本学が実施する教科・科目に係る個別テスト等(教科・科目に係る個別テスト、小論文、面接試験)及び出願書類の内容を総合評価して行います。志望する学科等が課す全ての教科・科目に係る個別テスト等(21～25ページ参照)を受験しなければ、合格者とはなりません。

1-3. 医学部医学科の2段階選抜の取扱い

医学部医学科の2段階選抜は、前期日程の志願倍率が6倍を超えた場合に、大学入学共通テストの教科・科目(23ページ参照)の成績の合計点(1,050点満点)により行い、その合格者に教科・科目に係る個別テスト等を行います。ただし、上記倍率を超えた場合でも教科・科目に係る個別テスト等を適切に実施できると判断した場合は、第1段階選抜の倍率を緩和することがあります。

1-4. 医学部医学科の「青森県定着枠」と「一般枠」の取扱い

- (1) 「青森県定着枠」受験者のうち合計点の点数順に上位8人を「青森県定着枠」合格者としします。
- (2) 上記(1)の結果、「青森県定着枠」において不合格となった者を「一般枠」に組み入れます。すなわち、「一般枠」と「青森県定着枠(のうち不合格者)」を合わせて、上位35人を「一般枠」の合格者としします。
- (3) 上記において、面接の評価が低いと不合格になる場合があります。

1-5. 理工学部第2志望選抜

理工学部では、複数の学科に進学意欲を持つ志願者に広く進学機会を与えるため、第2志望学科に基づく入学者選抜を行います。

- (1) 第2志望選抜は、前期日程において実施します。
- (2) 第2志望選抜は、全学科間で実施します。ただし、大学入学共通テストの利用教科・科目及び配点並びに教科・科目に係る個別テストの教科が統一されている募集単位間で実施するため、数物科学科(数学選択)に出願する場合のみ、第2志望選抜を希望することができません。
- (3) 数物科学科(数学選択)以外の志願者で、複数の学科に進学意欲を持っており、第2志望選抜を希望する場合は、弘前大学インターネット出願サイトから出願内容を登録する際に第2志望学科を選択する必要があります。選択しない場合は、第2志望選抜出願者として扱いません。
- (4) 入学者の選抜は、各学科が定める募集人員の9割を第1志望の志願者から成績順に選考し、残りの1割は第1志望・第2志望の志願者を区別せずに総得点順に選考します。
- (5) 第2志望学科の総得点は、第2志望学科の配点により計算します。

1-6. 農学生命科学部の第2志望選抜

農学生命科学部では、複数の学科に進学意欲を持つ志願者に広く進学機会を与えるため、第2志望学科に基づく入学者選抜を行います。

- (1) 第2志望選抜は、前期日程において実施します。
- (2) 第2志望選抜は、生物学科、分子生命科学科、食料資源学科、国際園芸農学科の4学科間で実施します。大学入学共通テストの利用教科・科目及び配点並びに教科・科目に係る個別テストの教科及び配点が統一されている募集単位間で実施するため、地域環境工学科に出願する場合のみ、第2志望選抜を希望することができません。
- (3) 地域環境工学科以外の志願者で、複数の学科に進学意欲を持っており、第2志望選抜を希望する場合は、弘前大学インターネット出願サイトから出願内容を登録する際に第2志望学科を選択する必要があります。選択しない場合は、第2志望選抜出願者として扱いません。
- (4) 入学者の選抜は、各学科が定める募集人員の9割を第1志望の志願者から成績順に選考し、残りの1割は第1志望・第2志望の志願者を区別せずに総得点順に選考します。

2. 出願資格

一般選抜に出願することができる者は、次のいずれかに該当し、かつ、出願する学部・学科等が定める令和9年度大学入学共通テストの利用教科・科目等(21～25ページの表参照)を全て受験する者としてします。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び令和9年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和9年3月修了見込みの者
- (3) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣の指定した者(昭和23年5月31日文部省告示第47号)
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧大学入学資格検定に合格した者を含む。)及び令和9年3月31日までに合格見込みの者で、令和9年3月31日までに18歳に達する者
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、高等学校卒業程度認定審査規則(令和4年文部科学省令第18号)による高等学校卒業程度認定審査に合格した者
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和9年3月31日までに18歳に達する者

注1) 出願資格(9)の入学資格認定を申請する者は、募集要項で締切を確認のうえ、あらかじめ入試課へ申し出てください。

注2) 医学部医学科の「青森県定着枠」を受験できる者は、上記(1)～(9)のいずれかに該当し、かつ、以下(i)及び(ii)について確約できる者です。

- (i) 大学在学中は青森県のキャリア形成卒前支援プランの内容及び、各種卒前支援プロジェクト(県が設定しているプロジェクト及び弘前大学のカリキュラム)に参加すること。
- (ii) 次の従事要件及び離脱要件に従うこと。

1. 従事要件

卒業(医師国家試験合格を前提)後、直ちに青森県のキャリア形成プログラム(※)(対象期間は、臨床研修を含む9年間、うち4年間は医師が不足している地域での勤務)に則って医療に従事すること。

2. 離脱要件

- (1) 退学したとき
- (2) 死亡したとき
- (3) 心身の重大な故障等があるとき
- (4) その他、青森県知事及び弘前大学長(以下「両者」という。)がやむを得ないと認める事由が存在し、かつ、それにより猶予期間を設定しても青森県のキャリア形成プログラムに則った勤務が困難であると認められるとき

なお、(3)(4)については、その事由について両者に誠意を持って説明を行うこと。

(※) ・医療法に基づき、卒業後は青森県のキャリア形成プログラムが適用されます。

・キャリア形成プログラム及びキャリア形成卒前支援プランについての詳細は、青森県庁ホームページにて確認願います。

(<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenko/iryo/kyariaikeiseiprogram.html>)

3. 出願手続

一般選抜はインターネットを利用した出願となります。

弘前大学インターネット出願サイトから登録を行い、入学検定料を払い込んだうえで、出願書類等を
出願期間内に本学に届くよう送付する必要があります。

3-1. 出願書類等

出願書類等は、下記のとおりです。事前に、写真データ、調査書、志望理由書及び封筒等を準備してください。

※大学入学共通テストの成績請求方法として「Web方式」を採用する予定です。詳細については、学生募集要項（11月公表予定）にてお知らせします。

※今後変更となる場合がありますので、出願の際は学生募集要項（11月公表予定）を必ず確認してください。

出願書類等	内 容 等
A. 全志願者共通	
1. 志願票等	1-1. 志願票 弘前大学インターネット出願サイトから必要事項を入力し、検定料払込み完了後にA4サイズで印刷してください。 1-2. 写真データ 弘前大学インターネット出願サイトで登録する際に、写真データをアップロードしてください。 写真データは、カラー（2MBまで）、出願前3ヶ月以内に撮影、上半身、脱帽、正面向きのものとします。本人確認に使用するため鮮明なものを使用してください。 なお、顔写真の加工・修正は認めません。加工・修正があった場合は、不正行為として扱うことがあります。
2. 調査書等	- 出身学校（高等学校長等）が作成した「調査書（厳封）」を提出してください。 - 出身学校の事情（廃校、被災、文書保管期間の超過等の理由）により「調査書」を提出できない場合は、「卒業証明書（厳封）」及び「成績証明書（厳封）」又は単位修得証明書（厳封）」を提出してください。「成績証明書」等も提出できない場合は、その旨を書面（様式任意、自書・捺印）で申し出てください。 - 国際バカロレア資格、アビトゥア資格、バカロレア資格又はGCEA資格等により出願する場合は、「資格証書のコピー」及び「成績証明書」等を提出してください。 - 高等学校卒業程度認定試験合格者（旧大学入学資格検定合格者も同様）は「合格成績証明書」を提出してください。なお、一部の科目を高等学校で修得し免除された者は、在学期間中の「調査書（厳封）」、「成績証明書（厳封）」、「単位修得証明書（厳封）」のいずれかを併せて提出してください。 合格見込み（認定試験で一部の科目に合格し、残りの科目全部について高等学校等で単位を修得する見込み）の場合は、文部科学省に申請のうえ、発行された「合格見込成績証明書（厳封）」を提出してください。 - 高等学校卒業程度認定審査合格者は「合格証明書」を提出してください。 （注）調査書について 1. 既卒者は改正前の旧様式でも可とします。 2. 印刷形式は、A4サイズの様式2枚をA3用紙1枚に印刷したものでも可とします。
3. 入学検定料	弘前大学インターネット出願サイト登録後に表示される支払い手続き画面に従って、入学検定料を払い込んでください。 ■入学検定料：17,000円（注）振込手数料は志願者負担となります。
4. 封 筒 (出願書類提出用)	角形2号（240mm×332mm）の封筒を各自用意してください。弘前大学インターネット出願サイトから印刷した「宛名シート」を貼付し、必要書類を封入して郵送してください。 前期日程・後期日程ともに出願する場合は、封筒を2枚用意し、それぞれの必要書類を封入し、郵送してください。
B. 医学部医学科 志願者	
1. 志望理由書	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式（Microsoft Excel版）をダウンロードし、直接入力したものをA4サイズで片面印刷して提出してください。（自書不可）
2. レターバックライト (第1段階選抜通知用)	レターバックライト（青色）を各自用意し、宛先（志願者住所、氏名、電話番号）を記入のうえ、二つ折りにして提出してください。
3. 確約書 (「青森県定着枠」志願者のみ)	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式（PDF版・右上隅に「令和9・一般選抜」と記載があるもの）をダウンロードし、A4サイズで印刷のうえ、志願者及び連帯保証人（身元引受人）本人が該当欄に自署したものを提出してください。
C. 医学部心理支援科学科 志願者	
志望理由書	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式（Microsoft Excel版）をダウンロードし、直接入力したものをA4サイズで片面印刷して提出してください。（自書不可）

注）証明書等は、「コピー」と指示がない限り全て原本を提出してください。

注）外国語で作成された証明書等には、可能な限り日本語訳または英語訳を添付してください。

注）出願書類の様式は、弘前大学インターネット出願サイト募集要項・各種様式ページからダウンロードしてください。

なお、出願する年度の様式であることを必ず確認してください。

4. 試験実施教科・科目等に関する留意事項

4-1. 大学入学共通テスト

大学入学共通テストにおいて、本学の指定した教科・科目を受験しない場合は、出願資格がなくなりますので、各学部の実施教科・科目及び配点等を参照のうえ、科目名、科目数には十分注意してください。

本学では、過年度の大学入学共通テストの成績は利用しません。

教科・科目名 学部・学科名		国語	地理歴史				公 民			数学①	数学②	理 科					外国語	情報			
		国語	地理総合、 地理探究	歴史総合、 日本史探究	歴史総合、 世界史探究	公共 地理総合／歴史総合	公共、倫理	公共、政治・経済	公共（再掲）	地理総合／歴史総合	数学Ⅰ	数学Ⅰ、 数学Ⅱ、 数学Ⅲ	物理基礎／化学基礎 生物基礎／地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語（リスニング含む）		情報Ⅰ	
人 文 社 会 学 部		◎ 1	○	○	○	○ 2※	○	○	○	○	○	○ 1又は2	○	○	○ 1又は2	○	○	○	◎ 1	◎ 1	6教科8科目 又は 7教科8科目
教 育 学 部		◎ 1	○	○	○	○ 1又は2※	○	○	○	○	○	○ 1又は2	○	○	○ 1又は2	○	○	○	◎ 1	◎ 1	6教科8科目 又は 7教科8科目
医 学 部	医 学 科	◎ 1	○	○	○	○ 1	○	○	○	×	◎ 1	◎ 1	×	○	○ 2	○	×	◎ 1	◎ 1	6教科8科目	
	保 健 学 科	◎ 1	○	○	○	○ 1	○	○	○	×	◎ 1	◎ 1	×	○	○ 2	○	×	◎ 1	◎ 1	6教科8科目	
	心 理 支 援 学 科	◎ 1	○	○	○	○ 1又は2※	○	○	○	○	○	○ 1又は2	○	○	○ 1又は2	○	○	◎ 1	◎ 1	6教科8科目 又は 7教科8科目	
理 工 学 部		◎ 1	○	○	○	○ 1	○	○	○	○	○ 1	◎ 1	○	●	● 2	○	○	◎ 1	◎ 1	6教科8科目	
農 学 生 命 学 部		◎ 1	○	○	○	○ 1	○	○	○	○	○ 1	◎ 1	○	○	○ 2	○	○	◎ 1	◎ 1	6教科8科目	

(注1) ◎は必須、●はいずれか1科目を必ず含むもの、○は選択科目を示しています。

(注2) □囲みの数字は受験科目数を表しています。

(注3) 大学入学共通テストで受験できる教科・科目の組み合わせについては、大学入学共通テストの受験案内で確認してください。

(注4) 「地理総合／歴史総合／公共」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」、「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。

※ 人文社会科学部、教育学部及び医学部心理支援科学科で、「地理歴史」及び「公民」から2科目を選択する場合の組み合わせは、別表（19ページ）を参照してください。

(注5) 「理科」については、以下のとおり選択してください。

なお、「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」を選択する場合は、4つの出題範囲（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」）のうち、2つを選択解答する必要があります。

・人文社会科学部及び教育学部では、「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1又は2科目を選択。

・医学部医学科及び保健学科では、「物理」、「化学」、「生物」から2科目を選択。

医学部心理支援科学科では、「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1又は2科目を選択。

・理工学部では、「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2科目を選択。ただし、「物理」又は「化学」の科目を最低1つ含むこと。

・農学生命科学部では、「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2科目を選択。

(注6) 「英語」には、リスニングを含みます。リスニングを受験しない場合は、出願資格がなくなります。ただし、リスニングを免除された者は除きます。

配点については、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）の合計得点を各学部・学科等の配点に換算して利用します。

なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディングの成績を200点満点に換算して素点として利用します。

別表 地理歴史及び公民において 2 科目を選択する場合の選択方法について

	地理総合, 地理探究	歴史総合, 日本史探究	歴史総合, 世界史探究	公共, 倫理	公共, 政治・経済	地理総合／歴史総合／公共		
						地理総合 及び 歴史総合	地理総合 及び 公共	歴史総合 及び 公共
地理総合, 地理探究		○	○	○	○	×	×	○
歴史総合, 日本史探究	○		○	○	○	×	○	×
歴史総合, 世界史探究	○	○		○	○	×	○	×
公共, 倫理	○	○	○		×	○	×	×
公共, 政治・経済	○	○	○	×		○	×	×

「○」の組み合わせから選択できます。

「×」の組み合わせは選択できません。

4-2. 教科・科目に係る個別テスト等

志望する学科等が課す全ての教科・科目に係る個別テスト等(21～25ページ参照)を受験しなければ、合格者とはなりません。

1. 「理科」の得点については、得点調整を行うことがあります。
2. 「入試過去問題活用宣言」について

本学は「入試過去問題活用宣言」に参加しており、アドミッション・ポリシーを実現するため必要と認められる範囲で「宣言参加大学」の入試過去問題を使用して出題することがあります。入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。また、使用した場合には、試験終了後、本学ホームページ上で公表します。

「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧については、「入試過去問題活用宣言」ホームページにて公表されています。(https://www.nyushikakomon.jp/)

5. 各学部の試験実施教科・科目及び配点等

人文社会科学部

		大学入学共通テストの利用教科・科目名		教科・科目に係る個別テスト等		大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト等の配点									
		教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	情報	外国語	小論文	計
前期	文化創生課程	国	「国語」を1	国	現代の国語、言語文化	共通	200	200		100 又は 200	100 又は 200	100	200 (※2)		1,500
	社会経営課程 (国語選択)	地歴	「地総、地探」, 「歴総、日探」, 「歴総、世探」, 「地／歴／公」	外	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ, 論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	共通	200	200		100 又は 200	100 又は 200	100	200 (※2)	900	1,500
		公民	「公、倫」, 「公、政・経」, 「地／歴／公 (再掲)」			個別	300						300	600	
	社会経営課程 (数学選択)	数	「数Ⅰ」, 「数Ⅰ, 数A」, 「数Ⅱ, 数B, 数C」	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C (注1)	共通	200	200		100 又は 200	100 又は 200	100	200 (※2)	900	1,500
後期	文化創生課程	理	「物基／化基／生基／地基」, 「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	外	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ, 論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	共通	200	200		100 又は 200	100 又は 200	100	200 (※2)	900	1,500
	社会経営課程	外	「英語」を1			個別				300			300	600	
	文化創生課程	情	「情報Ⅰ」を1	その他	小論文 (注2)	共通	200	200		100 又は 200	100 又は 200	100	200 (※2)	900	1,800
	社会経営課程		[6教科8科目又は7教科8科目]			個別								900	900

【大学入学共通テストの利用教科・科目等】

- (※1) 「地／歴／公 (地理総合／歴史総合／公共)」を選択する場合は、3つの出題範囲 (「地理総合」, 「歴史総合」及び「公共」) のうち、2つを選択解答してください。
- (※2) 「地歴」及び「公民」から2科目を選択する場合の組み合わせは、別表 (19ページ) を参照してください。
- (※3) 「物基／化基／生基／地基 (物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎)」を選択する場合は、4つの出題範囲 (「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」及び「地学基礎」) のうち、2つを選択解答してください。
- (※4) 人文社会科学部では、「数学」と「理科」の組み合わせで成績を利用しますので、科目数不足とならないよう注意してください。
- (例) 「数学」が1科目の場合は、「理科」は2科目選択して受験する必要があります。

【教科・科目に係る個別テスト等】

- (注1) 「数A」の出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」, 「数B」の出題範囲は「数列」, 「数C」の出題範囲は「ベクトル」とします。
- (注2) 一般選抜 (後期日程) の「小論文」は2つの試験時間に分けられており、どちらも受験する必要があります。

【大学入学共通テストの配点等】

- 受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。
- ただし、「理科」については、第1解答科目の成績を優先して用います。
- (※1) 「数学」「理科」「情報」の3教科4科目 (数学2科目・理科1科目・情報、または数学1科目・理科2科目・情報) の得点のうち、得点が高い3科目 (各100点満点) の成績を用います。
- (※2) 「英語」の配点については、リーディング (100点満点) とリスニング (100点満点) の合計得点 (200点満点) とします。
- リスニングを免除された場合は、リーディングの成績を200点満点に換算して利用します。

教育学部

				大学入学共通テストの利用教科・科目名		教科・科目に係る個別テスト等		大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト等の配点										
				教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	情報	面接	計	合計点
前期課程	学校教育等普通教育課程	小学校コース	国語専修	国	「国語」を1	国	現代の国語、言語文化 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C (注1)	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,450
				地歴	「地総、地探」、 「歴総、日探」、 「歴総、世探」、 「地／歴／公」 から1 又は2 (※1)	理	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 (注3)	個別	*400			*400 (注3)	*400 (注3)			100	500	
		中学校コース	社会専修	公民	「公、倫」、「公、政・経」、 「地／歴／公（再掲）」 (※2)	外	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ 論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,450
				数	「数Ⅰ」、「数Ⅱ、数A」、 「数Ⅲ、数B、数C」 から1 又は2 (※3)	国	現代の国語、言語文化	個別	400							100	500	
		高等学校コース	英語専修	理	「物基／化基／生基／地基」、 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」 から1 又は2 (※3)	その他	個人面接(注4)	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,450
				外	「英語」を1 「情報Ⅰ」を1 〔6教科8科目又は7教科8科目〕	国	現代の国語、言語文化	個別	400							100	500	
	特別支援教育専攻	養護教諭課程	数学専修	数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・ 数B・数C」 (注1)	その他	個人面接(注4)	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,450
				理	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 から1 (注3)	その他	個人面接(注4)	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,450
		養護教諭課程	理科専修	外	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ 論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	その他	個人面接(注4)	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,450
				国	現代の国語、言語文化 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・ 数C から1 (注2)	その他	個人面接(注4)	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,450
	後期課程	員養成教育課程	初等中等教育専攻	理	化学基礎・化学 生物基礎・生物 から1 (注3)	その他	個人面接(注4)	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,450
				その他	個人面接(注4)	その他	個人面接(注4)	共通	200	100 又は 200		100 又は 200	100 又は 200	200	50		950	1,150

【大学入学共通テストの利用教科・科目等】

- (※1) 「地／歴／公（地理総合／歴史総合／公共）」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」、「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。
- (※2) 「地歴」及び「公民」から2科目を選択する場合の組み合わせは、別表（19ページ）を参照してください。
- (※3) 「物基／化基／生基／地基（物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎）」を選択する場合は、4つの出題範囲（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」）のうち、2つを選択解答してください。
- (※4) 教育学部では、「地歴」、「公民」、「数学」、「理科」の組み合わせで成績を利用しますので、科目数不足とならないよう注意してください。
- (例) 「地歴」、「公民」から1科目選択した場合は、「数学」及び「理科」は2科目選択して受験する必要があります。

【教科・科目に係る個別テスト等】

- (注1) 「数A」の出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」、「数B」の出題範囲は「数列」、「数C」の出題範囲は「ベクトル、平面上の曲線と複素数平面」とします。
- (注2) 「数A」の出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」、「数B」の出題範囲は「数列」、「数C」の出題範囲は「ベクトル」とします。
- (注3) 「理科」の得点については、得点調整を行うことがあります。
- (注4) 一般選抜（前期日程・後期日程）の「個人面接」は、事前に提出される「調査書」を参考資料に用いて実施します。

【大学入学共通テストの配点等】

- 「英語」の配点については、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）の合計得点（200点満点）とします。
- リスニングを免除された場合は、リーディングの成績を200点満点に換算して利用します。
- 「情報」の配点については、得点（100点満点）を50点満点に換算して利用します。
- 受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。
- ただし、「地歴」、「公民」及び「理科」については、第1解答科目の成績を優先して用います。

【教科・科目に係る個別テスト等の配点等】

- 配点に*印を付している教科は、選択を表します。

	大学入学共通テストの利用教科・科目名		教科・科目に係る個別テスト等		大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト等の配点													計	合計点
	教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	情報	小論文	面接	出願書類				
前期	医 学 科	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C (注1)	共通	200	100		200	300	200	50				1,050	1,650		
		地歴 公民 数 理 外 情																	
	保健学科 看護学専攻	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C (注2)	共通	200	100		200	200	200	50				950	1,350		
		地歴 公民 数 理 外 情																	
	保健学科 放射線技術科学専攻	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C (注1)	共通	200	100		200	200	200	50				950	1,350		
		地歴 公民 数 理 外 情																	
	保健学科 検査技術科学専攻	国語	理	物理基礎・物理 (注3)	共通	200	100		200	200	200	50				950	1,350		
		地歴 公民 数 理 外 情																	
	保健学科 理学療法専攻	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C (注2)	共通	200	100		200	200	200	50				950	1,350		
		地歴 公民 数 理 外 情																	
後期	保健学科 作業療法専攻	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C (注2)	共通	200	100		200	200	200	50				950	1,350		
		地歴 公民 数 理 外 情																	

【大学入学共通テストの利用教科・科目等】
（※1）「地／歴／公（地理総合／歴史総合／公共）」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」、「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。
（※2）「地歴」及び「公民」から2科目を選択する場合の組み合わせは、別表（19ページ）を参照してください。
（※3）「物基／化基／地基（物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎）」を選択する場合は、4つの出題範囲（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」）のうち、2つを選択解答してください。
（※4）心理支援科学科では、「地歴」、「公民」、「数学」、「理科」の組み合わせで成績を利用しますので、科目数不足とならないよう注意してください。
（例）「地歴」、「公民」から1科目選択した場合は、「数学」及び「理科」は2科目選択して受験する必要があります。

【教科・科目に係る個別テスト等】
（注1）「数A」の出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」、「数B」の出題範囲は「数列」、「数C」の出題範囲は「ベクトル、平面上の曲線と複素数平面」とします。
（注2）「数A」の出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」、「数B」の出題範囲は「数列」、「数C」の出題範囲は「ベクトル」とします。
（注3）「理科」の得点については、得点調整を行うことがあります。
（注4）医学科の「個人面接」は、事前に提出される「調査書」及び「志望理由書」を参考資料に用いて実施します。

【大学入学共通テストの配点等】
○「英語」の配点については、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）の合計得点（200点満点）とします。
リスニングを免除された場合は、リーディングの成績を200点満点に換算して利用します。
○「情報」の配点については、得点（100点満点）を50点満点に換算して利用します。
○受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。
ただし、医学科及び保健学科においては、「地歴」、「公民」について、第1解答科目の成績を用います。
また、心理支援科学科においては、「地歴」、「公民」及び「理科」について、第1解答科目の成績を優先して用います。
○医学科の一般選抜（前期日程）では、大学入学共通テストの「理科」の配点については、「物理」、「化学」、「生物」から選択した2科目の得点をそれぞれ1.5倍して合計した点数を利用します。

【教科・科目に係る個別テスト等の配点等】
○医学科の一般選抜（前期日程）では、「個人面接」は点数化せず段階評価とします。「個人面接」の評価が低いと不合格になることがあります。
○心理支援科学科の一般選抜（前期日程）では、「志望理由書」をA～Dに4段階評価し、点数化します。各段階の評価点数は、A：40点、B：30点、C：20点、D：10点とします。
○配点に＊印を付している教科は、選択を表します。

【その他】
○医学科の2段階選抜は、一般選抜（前期日程）の志願倍率が6倍を超える場合に、大学入学共通テストの教科・科目の成績の合計点により行い、その合格者に教科・科目に係る個別テスト等を行います。ただし、上記倍率を超えた場合でも教科・科目に係る個別テスト等を適切に実施できると判断した場合は、第1段階選抜の倍率を緩和することがあります。

理 工 学 部

		大学入学共通テストの利用教科・科目名		教科・科目に係る個別テスト等		大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト等の配点									
		教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	試験の 区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	情報	計	合計点
前期	数 物 科 学 科 (数学選択)	国	「国語」 を 1	数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C」 (注1) (注2)	共通	200	100		200	200	200	50	950	1,750
		地歴	「地総、地探」, 「歴総、日探」, 「歴総、世探」, 「地／歴／公」			個別				800				800	
		公民	「公、倫」, 「公、政・経」, 「地／歴／公 (再掲)」												
	数 物 科 学 科 (数学科選択)	数	「数Ⅰ」, 「数Ⅰ, 数A」 から 1 「数Ⅱ, 数B, 数C」 を 1	数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C」 (注1)	共通	200	100		200	200	200	50	950	1,750
	地球環境防災学科	理	「物基／化基／生基／地基」, 「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」 から 2 (※2)	理	「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 から 1 (注3)	個別				300	500 (注3)			800	
後期	電子情報工学科	外	「英語」 を 1												
	機 械 科 学 科	情	「情報Ⅰ」 を 1												
	物質創成化学科	[6 教科 8 科目]			数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C」 (注1)	共通	200	100		200	200	50	950	1,750
	自然エネルギー学科				理	「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 から 1 (注3)	個別			150	650 (注3)			800	
					数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C」 (注1)	共通	200	100		200	200	50	950	1,550
					理	「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 から 1 (注3)	個別			600				600	
後期	数 物 科 学 科 (数学選択)			数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C」 (注1)	共通	200	100		200	200	200	50	950	1,550
						個別				600				600	
	数 物 科 学 科 (理科選択)			理	「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 から 1 (注3)	共通	200	100		200	200	200	50	950	1,550
	物質創成化学科					個別									
	地球環境防災学科														
	電子情報工学科														
	機 械 科 学 科										600 (注3)			600	
	自然エネルギー学科														

【大学入学共通テストの利用教科・科目等】

- (※1) 「地／歴／公 (地理総合／歴史総合／公共)」を選択する場合は、3つの出題範囲 (「地理総合」, 「歴史総合」及び「公共」) のうち、2つを選択解答してください。
- (※2) 「理科」又は「物理」又は「化学」の科目を最低1つ含むことが必要です。なお、「物基／化基／生基／地基 (物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎)」を選択する場合は、4つの出題範囲 (「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」及び「地学基礎」) のうち、2つを選択解答してください。

【教科・科目に係る個別テスト等】

- (注1) 「数A」の出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」, 「数B」の出題範囲は「数列」, 「数C」の出題範囲は「ベクトル、平面上の曲線と複素数平面」とします。
- (注2) 数物科学科 (数学選択) 前期日程の「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C」は2つの試験時間に分かれており、どちらも受験する必要があります。
- (注3) 「理科」の得点については、得点調整を行うことがあります。

【大学入学共通テストの配点等】

- 「英語」の配点については、リーディング (100点満点) とリスニング (100点満点) の合計得点 (200点満点) とします。
- リスニングを免除された場合は、リーディングの成績を200点満点に換算して利用します。
- 「情報」の配点については、得点 (100点満点) を50点満点に換算して利用します。
- 受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」, 「公民」については、第1解答科目の成績を用います。

		大学入学共通テストの利用教科・科目名		教科・科目に係る個別テスト等		大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト等の配点									
		教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	情報	計	合計点
前期	生物学科	国	「国語」を1	理	「化学基礎・化学」から1 「生物基礎・生物」(注1)	共通	200	100		200	200	200	50	950	1,350
	分子生命科学科	地歴	「地総、地探」、「歴総、日探」、 「歴総、世探」、「地／歴／公」から1 (※1)			個別					400 (注1)			400	
	食料資源学科	公民	「公、倫」、「公、政・経」、 「地／歴／公（再掲）」から1 (※1)												1,350
	国際園芸農学科	数	「数Ⅰ」、「数Ⅱ、数A」から1 「数Ⅱ、数B、数C」を1												
	地域環境工学科	理	「物基／化基／生基／地基」、 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 (※2)	数	「数Ⅰ・数Ⅱ・ 数A・数B・数C」(注2)	共通	200	100		200	200	200	50	950	
		外	「英語」を1			個別				400				400	
		情	「情報Ⅰ」を1												1,450
			[6教科8科目]												
後期	生物学科			理	「化学基礎・化学」から1 「生物基礎・生物」(注1)	共通	200	100		200	200	200	50	950	1,450
	分子生命科学科					個別					500 (注1)			500	
	食料資源学科														1,450
	国際園芸農学科														
															1,450

【大学入学共通テストの利用教科・科目等】

- (※1) 「地／歴／公（地理総合／歴史総合／公共）」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」、「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。
- (※2) 「物基／化基／生基／地基（物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎）」を選択する場合は、4つの出題範囲（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」）のうち、2つを選択解答してください。

【教科・科目に係る個別テスト等】

- (注1) 「理科」の得点については、得点調整を行うことがあります。
- (注2) 「数A」の出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」、「数B」の出題範囲は「数列」、「数C」の出題範囲は「ベクトル」とします。

【大学入学共通テストの配点等】

- 「英語」の配点については、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）の合計得点（200点満点）とします。
- リスニングを免除された場合は、リーディングの成績を200点満点に換算して利用します。
- 「情報」の配点については、得点（100点満点）を50点満点に換算して利用します。
- 受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」、「公民」については、第1解答科目の成績を用います。

6. 教科・科目に係る個別テストの評価方法等

6-1. 出題方針・出題形式等

教科・科目等	日程	出題範囲	出題方針・出題形式等
国語	前期	現代の国語 言語文化	長文の読解や記述に重点を置いた問題を課すことによって、語彙力・文法力・論理的思考力・表現力等を総合的に評価します。 現代文では、長文全体の論理展開や論旨を的確に把握し、それを自らの言葉で論理的に表現できるという点を評価します。古文および漢文では、基礎知識をもとに文章を的確に把握することを求め、登場人物の言動および心情等を問うもの、問題文全体の論旨を問うもの等、多様な論述問題を課します。
数学	前期 ・ 後期	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ａ・数Ｂ・数Ｃ＊１ 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ａ・数Ｂ・数Ｃ＊２ ＊１ 数Ａの出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」、数Ｂの出題範囲は「数列」、数Ｃの出題範囲は「ベクトル」とします。 ＊２ 数Ａの出題範囲は「図形の性質、場合の数と確率」、数Ｂの出題範囲は「数列」、数Ｃの出題範囲は「ベクトル、平面上の曲線と複素数平面」とします。	複数の単元における数学的知識を関連付けて考察する論理的思考力を評価します。問題作成にあたっては、基本事項の概念を正しく捉えているか、定理、公式などを正しく活用できるかを問うこととし、公式や解法の暗記だけでは解決できないような問題も出題します。評価にあたっては、題意を正確に理解しているか、正しく計算できているか、また、見つけ出した考えや解答に至るまでの道筋を適切に述べることができているかの観点を重視します。
物理	前期 ・ 後期	物理基礎・物理	物理現象について記述した文章題を出題することを基本とし、問題文の内容を読み解いて解答に必要な物理法則を選択する判断力、答えを導くまでの論理的思考力およびその過程を記述する表現力を評価します。評価にあたっては、基本的な原理や法則を活用し最終的な解答に至るまでの過程を適切に記述できているかどうかを重視します。
化学	前期 ・ 後期	化学基礎・化学	物質およびそれらが関わる化学的事象に関する問題を出題し、理解度と化学的思考力を評価します。化学の基本的な概念と原理・法則を活用することで、物質の構造、性質および反応を論理的に考察し記述できるかを問います。評価にあたっては、最終的な解答に至るまでの過程を適切に記述できているかどうかを重視します。
生物	前期 ・ 後期	生物基礎・生物	生物や生命現象に関する問題を出題し、生物学の知識・理解度を評価するとともに、観察結果・実験データなどの内容を適切に解釈し、答えを導くまでの論理的思考力・判断力・表現力を評価します。特に生物学の基本的な概念や原理・法則を活用し、最終的な解答に至るまでの過程を適切に記述できているかどうかを重視します。
英語	前期	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ 論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	英語の文章を正確に理解し、その内容を的確にまとめ、それについての自らの意見を論理的に述べるために必要な英語のコミュニケーション能力を評価します。 以上の能力を問うために、(１)まとまった内容の英文を読解し、その概要・要点を把握できること、(２)英語の語彙や、英語の文構造・文法についての正しい知識を持っていること、(３)さまざまな場面での英語の会話の構成を的確に理解できること、(４)英文のエッセイを作成できること等に重点をおいて、論理的な思考力・読解力・表現力等を評価するための問題を課します。

小論文 (医学部保健学科)	前期	保健医療専門職を目指す学生にふさわしい基礎的学力，協調性，向上心，研究心を測るため，保健医療分野（人間，社会，環境，健康，医療，福祉など）にかかわる課題を提示して論述させます。また，資料や文献を与え，論述させることもあります。問題意識，洞察力，論理構成力，表現力，適性などを重視します。
小論文 (人文社会科学部)	後期	人間の営みや現代社会が直面している課題等について，資料として提示された文献等をふまえて，自らの意見を述べるという論述形式の問題を課します。自らの考えを筋道立てて組み立て，それを制限字数内で論理的で説得力のある文章として表現することが求められます。 資料として提示された文献等の内容を十分に理解していること，設問に対して自分の考えを論理的に述べていること，日本語の文章表現として適切であること等が評価のための判断の基準となります。

6-2. 面接の実施方法・評価方法等

日程	学部・学科等			実施方法・評価方法等
前期	教育学部	学校教育教員養成課程	小学校コース	複数の教員により受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり12分程度 出願の際に提出された調査書を面接の際の参考資料として使用する。 質疑応答等を通して，①自己表現能力，②教職への目的意識，③教員としての適性・資質・能力，④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し「行動力」と「意欲」を評価する。
			国語専修	
			社会専修	
			数学専修	
			理科専修	
			英語専修	
			特別支援教育専攻	
前期	医学部		養護教諭養成課程	複数の教員で将来性，積極性，信頼感，自己統制，社会性を受験者1人ずつに問う面接（複数の教員で1人の受験者を面接する方式）を行う。 1人当たり15分程度 出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。
			医学科	
後期	教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育専攻	複数の教員により受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり15分程度 出願の際に提出された調査書を面接の際の参考資料として使用する。 質疑応答等を通して，①自己表現能力，②教職への目的意識，③教員としての適性・資質・能力，④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し「行動力」と「意欲」を評価する。

6-3. 出願書類の記載内容・評価方法等

医学部医学科及び心理支援科学科を除く学部学科については、「志望理由書」の提出は求めません。
また、「調査書」については、出願要件確認のために提出は求めますが、評価対象とはしません。

なお、教育学部及び医学部医学科においては、以下のとおり出願書類を面接の参考資料とします。

学部・学科	記載内容・評価方法等
教 育 学 部	【調査書】 面接の参考資料とする。
医 学 部 医 学 科	【調査書・志望理由書】 面接の参考資料とする。
医 学 部 心理支援科学科	【志望理由書】 志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路（公認心理師資格取得後の展望を含む）等について、これまでの勉学やさまざまな活動を通して得た経験を基に自分の考えを記入させる。 本学科に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「行動力」及び「意欲」を評価する。 【評価方法等】 出願書類（志望理由書）はA～Dに4段階評価し、点数化する。 各段階の評価点数は、A：40点、B：30点、C：20点、D：10点とする。

6-4. 合否判定基準

人文社会科学学部	【前期日程・後期日程】 1. 大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テスト等の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、教科・科目に係る個別テスト等の得点の高い者を上位とする。
教育学部	【前期日程・後期日程】 1. 大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テスト等の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、教科・科目に係る個別テスト等の得点の高い者を上位とする。 3. 個人面接の得点が低いと不合格になることがある。
医学部	○医学科 【前期日程】 1. 大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テスト等の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、教科・科目に係る個別テスト等の得点の高い者を上位とする。 3. 個人面接の評価が低いと不合格になることがある。
	○保健学科 【前期日程】 1. 大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テスト等の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、教科・科目に係る個別テスト等の得点の高い者を上位とする。
	○心理支援科学科 【前期日程】 1. 大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト及び出願書類（志望理由書）の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、教科・科目に係る個別テスト、出願書類の順序で得点の高い者を上位とする。
理工学部	【前期日程・後期日程】 1. 大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テストの総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、教科・科目に係る個別テストの得点の高い者を上位とする。
農学生命科学部	【前期日程・後期日程】 1. 大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テスト等の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、教科・科目に係る個別テスト等の得点の高い者を上位とする。
全学部共通	【前期日程・後期日程】 教科・科目に係る個別テスト等のいずれか1科目でも得点が著しく低い場合、不合格になることがある。

7. 試験場

前期日程では、受験者の利便性を考慮し、本学所在地以外にも試験場を設けて試験を実施します。
各試験場において試験を実施する学部・学科等は下記のとおりです。
なお、後期日程は、弘前地区試験場のみでの実施となります。

学部等名	試 験 場			
	前期日程			後期日程
	(1) 弘前地区	(2) 仙台地区	(3) 札幌地区	弘前地区
人文社会科学部	○	○	○	○
教育学部	○	×	×	○
医学部 医学科	○	×	×	
医学部 保健学科	○	○	○	
医学部 心理支援科学科	○	○	○	
理工学部	○	○	○	○
農学生命科学部	○	○	○	○

(1) 弘前地区 弘前大学の校舎・施設等を予定しています。

(2) 仙台地区 TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口

(宮城県仙台市青葉区花京院 1-2-15 ソララプラザ)

(3) 札幌地区 札幌コンベンションセンター（北海道札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1）

注）試験場に関するご質問は、弘前大学学務部入試課へお願いします。

試験場となる各施設へは問い合わせないでください。

Ⅱ. 総合型選抜

1. 総合型選抜の実施方法等

総合型選抜Ⅰは、大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テストを免除して選抜を行います。本学が実施する小論文試験等を全て受験していない場合は、合格者とはなりません。

総合型選抜Ⅱは、大学入学共通テストを課し、教科・科目に係る個別テストは免除して選抜を行います。本学が指定した大学入学共通テストの教科・科目を受験していない場合（英語のリスニングを受験しない場合も含む。ただし、リスニングを免除された者は除く。）及び本学が実施する小論文試験等を全て受験していない場合は、合格者とはなりません。

いずれの選抜においても、成績が著しく低い場合は、募集人員にかかわらず不合格となることがあります。

なお、総合型選抜Ⅰ・Ⅱの合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を一般選抜（前期日程）の募集人員に加えます。

1-1. 出願手続

総合型選抜はインターネットを利用した出願となります。

弘前大学インターネット出願サイトから登録を行い、入学検定料を払い込んだうえで、出願書類等を出願期間内に本学に届くよう送付する必要があります。

なお、人文社会科学部の「国際バカロレア枠」、並びに人文社会科学部、理工学部及び農学生命科学部の「専門高校枠」は、要件を満たしたうえで出願時に希望した者のみを対象とします。「国際バカロレア枠」及び「専門高校枠」の要件は34ページ以降で確認してください。

1-2. 出願書類等

出願書類等は、下記のとおりです。事前に、写真データ、調査書、志望理由書等及び封筒等を準備してください。

総合型選抜Ⅱの志願者は、大学入学共通テスト出願サイトのマイページより「令和9年度共通テスト成績請求チケット」を取得し、印刷のうえ、提出してください（12月中旬）。

※出願の際は学生募集要項を必ず確認してください。

出願書類等	内 容 等
A. 全志願者共通（総合型選抜Ⅰ、Ⅱ）	
1. 志願票等	1-1 志願票 弘前大学インターネット出願サイトから必要事項を入力し、検定料払込み完了後にA4サイズで印刷してください。 1-2 写真データ 弘前大学インターネット出願サイトで登録する際に、写真データをアップロードしてください。 写真データは、カラー（2MBまで）、出願前3ヶ月以内に撮影、上半身、脱帽、正面向きのものとします。本人確認に使用するため鮮明なものを使用してください。 なお、顔写真の加工・修正は認めません。加工・修正があった場合は、不正行為として扱うことがあります。
2. 調査書	出身学校長が作成し、厳封したものを提出してください。 （注）調査書について 1. 既卒者は改正前の旧様式でも可とします。 2. 印刷形式は、A4サイズの様式2枚をA3用紙1枚に印刷したものでも可とします。 3. 2学期制の高等学校等は、出願の時点で発行できる最新の成績が記載されたものを提出してください。ただし、出願の時点で第3学年の成績を記載できない場合（最新の成績が第2学年後期となる場合）は、その旨を高等学校等において備考欄に記載された調査書を提出し、10月16日（金）（正午必着）までに第3学年前期の成績が記載された調査書を、出願書類を提出した宛先まで郵送してください。
3. 入学検定料	弘前大学インターネット出願サイト登録後に表示される支払い手続き画面に従って、入学検定料を払い込んでください。 ■入学検定料：17,000円（注）振込手数料は志願者負担となります。
4. 封 筒 （出願書類提出用）	角形2号（240mm×332mm）の封筒を各自用意してください。弘前大学インターネット出願サイトから印刷した「宛名シート」を貼付し、必要書類を封入して郵送してください。

B. 人文社会科学部 志願者	
1. 学習計画書	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式 (PDF 版) をダウンロードし、A 4 サイズで 両面印刷 (1 枚) のうえ、志願者本人の自書により記載したものを提出してください。(制限字数1,200字)
2-1. 資格証書等 (文化創生課程の国際バカロレア枠で出願する者のみ)	次の資格証書のコピー又は証明書を提出してください。 【国際バカロレア資格取得者】 国際バカロレア資格証書のコピー 【国際バカロレア資格取得見込み者】 出身学校長 (又は進路指導担当者) が作成した国際バカロレア資格の取得見込み証明書 (任意様式。国際バカロレアプログラムを選択していることがわかるもの)
2-2. 検定試験関係書類 (社会経営課程の専門高校枠で出願する者のみ)	次のいずれかの検定試験の等級を証明する書類のコピーを提出してください。 ・日本商工会議所主催簿記検定試験 2 級 ・公益財団法人全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験 1 級 ・独立行政法人情報処理推進機構主催基本情報技術者試験 ・公益財団法人全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験 1 級
C. 教育学部 (保健体育専修を除く) 志願者	
1. 志望理由書	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式 (Microsoft Word 版又は PDF 版) をダウンロードし、指定された枠内に志望理由と活動実績を自由な形式で記載したものを提出してください。(制限字数なし) ※パソコン等で直接入力したものでも、自書により記載したものでも構いません。 ※ A 4 サイズ (片面) 1 枚で提出してください。 ※写真や紙等を貼り付けて作成する場合は、貼り付けた様式をコピーしたものを原本として提出してください。
2. 地域志向教員志望理由書 (小学校コースの地域志向教員枠で出願する者のみ)	
D. 教育学部 (保健体育専修) 志願者	
1. 志望理由書	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式 (Microsoft Word 版又は PDF 版) をダウンロードし、指定された枠内に志望理由と活動実績を自由な形式で記載したものを提出してください。(制限字数なし) ※パソコン等で直接入力したものでも、自書により記載したものでも構いません。 ※ A 4 サイズ (片面) 1 枚で提出してください。 ※写真や紙等を貼り付けて作成する場合は、貼り付けた様式をコピーしたものを原本として提出してください。
2. 運動歴調査書	出身学校長が作成し、提出してください。 弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式 (Microsoft Word 版) をダウンロードし、記入要領に従い直接入力したものを A 4 サイズで提出してください。
3. 実技選択票	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式 (PDF 版) をダウンロードし、A 4 サイズで印刷のうえ、志願者本人の自書により記載したものを提出してください。
E. 医学部医学科, 医学部保健学科, 理工学部, 農学生命科学部 志願者	
志望理由書	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式 (Microsoft Excel 版) をダウンロードし、直接入力したものを A 4 サイズで印刷のうえ、提出してください。(自書不可) (制限字数 医学部医学科: 800 ~ 1,000 字以内 医学部保健学科, 理工学部, 農学生命科学部: 600 字)
F. 医学部医学科 志願者のみ	
確約書	弘前大学インターネット出願サイトトップページから様式 (PDF 版・右上隅に「令和 9・総合型Ⅱ」と記載があるもの) をダウンロードし、A 4 サイズで印刷のうえ、志願者及び連帯保証人 (身元引受人) 本人が該当欄に自署したものを提出してください。
G. 総合型選抜Ⅱ 志願者	
令和 9 年度共通テスト成績請求チケット	本学の入学試験実施後に、大学入学共通テスト出願サイトのマイページより「令和 9 年度共通テスト成績請求チケット国公立総合型選抜用」を取得し、印刷のうえ、簡易書留で郵送してください (12月中旬)。

注) 証明書等は、「コピー」と指示がない限り全て原本を提出してください。

注) 出願書類の様式は、弘前大学インターネット出願サイト募集要項・各種様式ページからダウンロードしてください。

なお、出願される際はご自身が出願する年度の様式であることを必ず確認してから使用してください。

2. 総合型選抜Ⅰ

【大学入学共通テストの受験について】

総合型選抜Ⅰでは、大学入学共通テストは課していませんが、大学入学までの勉学意欲の継続という趣旨に鑑み、合格者は大学入学共通テストを必ず受験してください。人文社会科学部「国際バカロレア枠」で出願し、合格した者はこの限りではありません。

なお、大学入学共通テストの成績が合否に影響することはありません。

■ 大学入学共通テストの出題教科・科目

国 語	「国語」	1	
地 歴	「地理総合，地理探究」，「歴史総合，日本史探究」，		
	「歴史総合，世界史探究」，「地理総合／歴史総合／公共」	1 又は 2	
公 民	「公共，倫理」，「公共，政治・経済」，		
	「地理総合／歴史総合／公共（再掲）」	1 又は 2	
数学①	「数学Ⅰ」，「数学Ⅰ，数学A」	1 又は 2	
数学②	「数学Ⅱ，数学B，数学C」	1 又は 2	
理 科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」，		
	「物理」，「化学」，「生物」，「地学」	1 又は 2	
外国語	「英語（リスニング含む）」	1	
情 報	「情報Ⅰ」	1	
【6教科8科目又は7教科8科目】			

注1) 大学入学共通テストを受験するためには、事前の出願手続が必要です。また、**入学後に大学入学共通テストの成績を提出して**

いただきますので、必ず出願時に成績の閲覧を希望してください。提出方法の詳細については、入学手続後にお知らせします。

注2) 大学入学共通テストの検定料及び成績閲覧手数料は本人負担となります。

注3) 「地理総合／歴史総合／公共」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」，「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。

注4) 「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」を選択する場合は、4つの出題範囲（「物理基礎」，「化学基礎」，「生物基礎」及び「地学基礎」）のうち、2つを選択解答してください。

注5) 「英語」については、リスニングも受験してください。ただし、リスニングを免除された者は除きます。

2-1 人文社会科学部（総合型選抜Ⅰ）	
出 願 要 件	次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者 1. 高等学校若しくは中等教育学校を令和3年4月以降に卒業した者及び令和9年3月卒業見込みの者 2. 本学部のアドミッション・ポリシーを十分理解し、人物が優れ、志願する課程の教育・研究内容に強い興味があり、自発的学習意欲と問題解決のための思考力及び資質を有し、かつ十分な基礎学力を有する者 【国際バカロレア枠について】 文化創生課程の募集人員35人には、国際バカロレア枠3人を含みます。 前述の要件に加え、以下の要件を満たし、出願時に希望した者を国際バカロレア枠出願者として扱います。 ・国際バカロレア資格を有する者又は国際バカロレア資格を令和9年3月までに取得見込みの者 【専門高校枠について】 社会経営課程の募集人員45人には、専門高校枠8人を含みます。 前述の要件に加え、以下の要件を満たし、出願時に希望した者を専門高校枠出願者として扱います。 ・高等学校等において次のいずれかの学科に該当すること。 ○商業又は情報に関する学科 ○総合学科（商業又は情報の単位を20単位以上修得した者） ・次の検定試験のいずれかに合格していること。 ○日本商工会議所主催簿記検定試験2級 ○公益財団法人全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験1級 ○独立行政法人情報処理推進機構主催基本情報技術者試験 ○公益財団法人全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験1級 ※国際バカロレア枠、専門高校枠を希望する場合は、弘前大学インターネット出願サイトから出願内容を登録する際に「国際バカロレア枠を希望する」又は「専門高校枠を希望する」を選択する必要があります。選択しない場合は、上記に該当していても国際バカロレア枠、専門高校枠出願者として扱いません。
選 抜 方 法	小論文、個人面接（プレゼンテーション含む）及び出願書類（調査書・学習計画書）の採点結果を総合して行います。 1. 小論文 一つのテーマについて論述させる。（制限字数800字） 2. 個人面接 受験者は自己PR、志望理由と入学後の学習計画、大学卒業後の進路等について5分以内で口頭発表し、それに基づいて複数の教員により質疑応答を行う。 1人当たり20分程度とする。（口頭発表を含む） 学習計画書やその他の資料等を見ながら、面接を受けることはできない。 出願の際に提出された調査書及び学習計画書を面接の参考資料として使用する。 3. 出願書類（調査書・学習計画書） 〈調査書〉 高等学校での科目の履修状況と学習成果、課外活動の状況、社会貢献活動・資格各種の取得状況等から判断し、高校時代の活動を評価する。 〈学習計画書〉 志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について、これまでの勉強やさまざまな活動を通して得た経験を元に記述させる。 （1）これまでに熱心に取り組んだこと（勉強、課外活動など）を含めた自己PR（400字以内） （2）当該課程への志望理由と入学後の学習計画（600字以内） （3）大学卒業後の進路希望（200字以内）

2-2 教育学部（総合型選抜Ⅰ）	学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 音楽専修 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 美術専修 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 保健体育専修
出 願 要 件	次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者 1. 弘前大学教育学部での勉学を強く希望する者 2. 本専攻のアドミッション・ポリシーを十分理解し、本専攻への志望動機が明確である者 3. 高等学校若しくは中等教育学校を令和3年4月以降に卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者 注) 教育学部音楽専修・美術専修でそれぞれ個別に選抜を実施し、音楽専修3人、美術専修3人を合格者数の目安とします。 なお、志願状況により内訳が増減することがあります。
選 抜 方 法	○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 音楽専修 実技及び個人面接の評価を総合して選抜を行います。 1. 実技 「共通課題」及び「選択課題」を実施し、演奏終了後に、演奏楽曲に関する知識について口頭試問を行う。 複数の教員により評価する。 「共通課題」 以下の課題を演奏する。 ①コールユーブンゲン第1巻のNo. 49e, No. 52a～b, No. 55a, No. 76a～d, No. 79a～cより、当日指定された曲を歌うこと。 ②演奏（ピアノ）：Hanon No.39「音階」の中から当日指定された同一調号による長調と短調を暗譜で演奏すること。ただし、速度は、♩=80以上とする。 「選択課題」 次の課題A又はBのどちらかを選択し、歌唱、演奏する。 課題A ①演奏（ピアノ）：ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン作曲の任意のピアノソナタの第1楽章、あるいは最終楽章を暗譜で演奏すること。ただし、緩徐楽章は除く。（場合により途中で止めることがある） ②演奏（声楽）：コンコーネ50番（中声用）の12番、25番、32番より当日指定された1曲を母音で歌うこと。ただし、曲中に反復記号が含まれる場合、反復は行わずに演奏することとする。 課題B ①演奏（ピアノ）：ツェルニー 100番練習曲集、ツェルニー 30番練習曲集、ツェルニー 40番練習曲集の中から、任意の1曲を選び演奏すること。（暗譜での演奏でなくとも構わない） ②演奏：独唱又は独奏（ピアノを除く）のいずれかを選択し、暗譜で演奏すること。曲目は自由、演奏時間は原則として10分以内とする。（場合により途中で止めることがある） 演奏曲目の総譜を当日持参し、試験担当者に提示すること。楽器を演奏する場合は、各自楽器を持参すること。なお、共演者を必要とする場合は、受験者側で用意し、必ず当日同伴すること。また、事前にその旨を入試課に連絡すること。

選 抜 方 法

2. 個人面接
複数の教員により受験者1人ずつの面接を行う。
1人当たり10分程度とする。
出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。

○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 美術専修

実技及び個人面接の評価を総合して選抜を行います。

1. 実技
基本的な造形能力をみる。
複数の教員により評価する。
鉛筆によるデッサン：「与えられたモチーフと自分の手」
サイズ：八つ切りケント紙
鉛筆描画用具を持参すること。試験実施時間は2時間とする。
2. 個人面接
複数の教員により受験者1人ずつの面接を行う。
1人当たり30分程度とする。
日本及び諸外国の美術に関する知識等についての口頭試問を含め、志望動機、適性等について面接を行う。
面接時に過去3年以内に自作した作品を持参すること。（1人で一度に搬入搬出できるものにする。）
上記の作品とは、絵画、彫刻、デザイン、工芸、映像メディア*の作品や任意の大きさのファイルに綴じた学習成果を示す資料、若しくはデッサンのことである。
出願の際に提出された調査書、志望理由書及び当日に持参された作品は、採点せず、面接時の参考資料とする。
なお、面接室への危険物の持ち込みは、禁止とする。
※映像メディア作品を持参する場合は、試験日の1週間前までに入試課に連絡すること。作品はMP4形式で3分以内とし、本人のノート型コンピュータやタブレット端末の持ち込みによる再生を原則とする。その際、面接室内の外部ディスプレイへの出力を前提として、HDMI出力の可能なディスプレイアダプタを携帯すること。機材その他によって再生できない場合の代替策も準備しておくこと。

○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 保健体育専修

実技及び個人面接の評価を総合して選抜を行います。

1. 実技
器械運動・陸上競技・対人競技の3つの領域の運動やスポーツに関する基礎的・基本的な技能のテストを行う。
複数の教員により評価する。

「領域」
①器械運動領域（体づくり運動、表現運動を含む）：マット運動で基本的な身体操作技能および表現技能についてテストを行う。
②陸上競技領域：「走」「跳」「投」の基本的な運動技能についてテストを行う。（体育館で実施）
③対人競技領域：以下の3種目から1種目を選択して、基本的な対人技能についてテストを行う。
A バスケットボール
B バドミントン
C 柔道
持参用具
運動着、柔道着（柔道選択者のみ）、運動靴（体育館用）、筆記用具
※バドミントン選択者はラケットを持参してもよい。

選 抜 方 法	2. 個人面接 複数の教員により受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり40分程度とする。 体育（体育理論を含む）、保健に関する知識等についての口頭試問を含め志望動機や適性等について多面的観点から面接を行う。 出願の際に提出された調査書、志望理由書及び運動歴調査書を面接の参考資料として使用する。						
配点, 評価方法, 合否判定基準	【配点】 ○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 音楽専修, 美術専修, 保健体育専修 <table><tr><td>実技</td><td>個人面接</td><td>合計</td></tr><tr><td>300</td><td>300</td><td>600</td></tr></table> 【評価方法】 ○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 音楽専修, 美術専修, 保健体育専修 （実技） 基本的な能力・技術等を把握し、音楽・美術・保健体育の教員として必要な「学力」を評価する。 保健体育専修においては、「運動歴調査書」で、専門とする運動種目における実技能力等を評価し、実技の得点に含める。 （個人面接） 質疑応答等を通して、①自己表現能力、②教職への目的意識、③教員としての適性・資質・能力、④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し「行動力」と「意欲」を評価する。 美術専修及び保健体育専修においては、それぞれ美術と保健体育に関する知識を問う口頭試問も行い、「学力」も評価する。 【合否判定基準】 ○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 音楽専修, 美術専修, 保健体育専修 1. 実技及び個人面接の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、個人面接の得点の高い者を上位とする。 3. 個人面接の得点が低いと不合格になることがある。	実技	個人面接	合計	300	300	600
実技	個人面接	合計					
300	300	600					

2-3 理工学部（総合型選抜Ⅰ）	
出 願 要 件	次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者 1. 高等学校若しくは中等教育学校を令和3年4月以降に卒業した者及び令和9年3月卒業見込みの者、又は高等専門学校3年次を令和9年3月修了見込みの者 2. 人物が優れ、志願する学科の教育・研究内容に強い興味があり、自発的学習意欲と問題解決のための思考力及び資質を有し、かつ十分な基礎学力を有する者 注）数物科学科では、数学講義選択者と物理学講義選択者から、同数程度の合格者を予定しています。 【専門高校枠について】 電子情報工学科の募集人員17人には専門高校枠4人、機械科学科の募集人員24人には専門高校枠2人を含みます。 前述の要件に加え、以下の要件を満たし、出願時に希望した者を専門高校枠出願者として扱います。 ・電子情報工学科：高等学校等（高等専門学校を含む）の工業、商業に関する学科、又は高等学校の総合学科を卒業及び卒業見込みであること（高等専門学校については3年次修了見込みであること）。 ・機械科学科：高等学校等（高等専門学校を含む）の工業に関する学科を卒業及び卒業見込みであること（高等専門学校については3年次修了見込みであること）。 ※専門高校枠を希望する場合は、弘前大学インターネット出願サイトから出願内容を登録する際に「専門高校枠を希望する」を選択する必要があります。選択しない場合は、上記に該当していても専門高校枠出願者として扱いません。
選 抜 方 法	レポート及び個人面接の評価を総合して選抜を行います。 1. 講義の実施とその内容に関するレポート 学科ごとに講義を行い、その内容に関するレポートを作成する。 講義は45分程度、レポートは60分とする。 ○レポート試験実施方法 (数物科学科) 広い意味で数学に関係する講義、広い意味で物理学に関係する講義のいずれかを出願時に選択して受講し、選択した講義に関連して指示された課題に関するレポートを作成する。レポートは、講義の理解度、論理的思考力及び表現力の評価を目的とするものである。 (物質創成化学科) 化学に関する講義を聞いて、講義において指示された課題に関するレポートを作成する。レポートは、講義の理解度や論理的思考力を評価するものであり、単に高等学校における化学についての学力を見るものではない。 (地球環境防災学科) 広い意味で地球の環境や防災に関係する講義を聞いて、講義において指示された課題に関するレポートを作成する。レポートは、講義の理解度や論理的思考力を評価するものであり、単に高等学校における理科の科目についての学力を見るものではない。 (電子情報工学科) エレクトロニクスや情報技術の基礎となる数学や理科に関する講義を聞いて、講義において指示された課題に関するレポートを作成する。レポートは、講義の理解度や論理的思考力を評価するものであり、単に高等学校における数学や理科の科目についての学力を見るものではない。 (機械科学科) 機械の基礎となる理科に関係する講義を聞いて、講義において指示された課題に関するレポートを作成する。レポートは、講義の理解度や論理的思考力を評価するものであり、単に高等学校における理科の科目についての学力を見るものではない。 (自然エネルギー学科) エネルギー・環境問題を理解するための基礎となる数学や理科に関する講義を聞いて、指示された課題に関するレポートを作成する。レポートは、講義の理解度や論理的思考力を評価するものであり、単に高等学校における数学や理科の科目についての学力を見るものではない。

選 抜 方 法	2. 個人面接 複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり15分程度とする。 基礎学力に関する試問を含む。 出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。 ○試問実施方法 (数物科学科) 数学講義選択者には数学、物理学講義選択者には物理学及び数学に関する試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。 (物質創成化学科) 化学及び英語に関する試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。 (地球環境防災学科) 数学及び英語に関する試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。 (電子情報工学科) 数学に関する試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。 (機械科学科) 数学及び英語に関する試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。 (自然エネルギー学科) 試問の開始時に、志願者は「物理基礎」または「化学基礎」のどちらか1科目を選択する。選択した科目に関する試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。						
配点, 評価方法, 合否判定基準	【配点】 <table><tr><td>レポート</td><td>個人面接</td><td>合計</td></tr><tr><td>200</td><td>300</td><td>500</td></tr></table> 【評価方法】 (レポート) 学部において実施する講義に、能動的に対応するために必要な「学力」および「行動力」を評価し、点数化する。 (個人面接) 基礎学力に関する試問において、学部のカリキュラムに基づく学習を進めるのに必要な「学力」を評価する。また、志望動機、入学後の履修計画、卒業後の見通しなどに関する総合的な質疑により、「意欲」および「行動力」を評価し、点数化する。 【合否判定基準】 1. レポート（講義を実施し、その内容に関するレポートを作成）及び個人面接（基礎学力に関する試問を含む）の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、個人面接の得点の高い者を上位とする。 注)「専門高校枠」について (1)「専門高校枠」受験者から、総得点順に「専門高校枠」合格者を決定する。 (2) (1)の結果、「専門高校枠」で不合格となった者と、当該学科の「専門高校枠」以外の受験者を合わせて総得点順に合格者を決定する。	レポート	個人面接	合計	200	300	500
レポート	個人面接	合計					
200	300	500					

2-4 農学生命科学部（総合型選抜Ⅰ）	
出 願 要 件	次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者 1. 高等学校若しくは中等教育学校を令和3年4月以降に卒業した者及び令和9年3月卒業見込みの者、又は高等専門学校3年次を令和9年3月修了見込みの者 2. 人物が優れ、志願する学科の教育・研究内容に強い興味があり、自発的学習意欲と問題解決のための思考力及び資質を有し、かつ十分な基礎学力を有する者 【専門高校枠について】 国際園芸農学科の募集人員15人には専門高校枠4人、地域環境工学科の募集人員9人には専門高校枠3人を含みます。 前述の要件に加え、以下の要件を満たし、出願時に希望した者を専門高校枠出願者として扱います。 ・国際園芸農学科：高等学校等の農業、林業、水産、工業、商業、情報に関する学科を卒業及び卒業見込みであること。 高等専門学校についても同様の学科を3年次修了見込みであること。 ・地域環境工学科：高等学校等の農業、工業に関する学科を卒業及び卒業見込みであること。 高等専門学校についても同様の学科を3年次修了見込みであること。 ※専門高校枠を希望する場合は、弘前大学インターネット出願サイトから出願内容を登録する際に「専門高校枠を希望する」を選択する必要があります。選択しない場合は、上記に該当していても専門高校枠出願者として扱いません。
選 抜 方 法	小論文及び個人面接の評価を総合して選抜を行います。 1. 小論文 農学や生命科学などに関するいくつかのテーマについて論述させる。 (制限字数800字) 90分 2. 個人面接 複数の教員による個人面接を20分程度で行う。 具体的には、アドミッション・ポリシーに掲げた農学生命科学部及び各学科が求める学生像に適するかどうかを総合的に判断するための質問を行う。また、面接の過程で、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認するため、口頭試問を行う。 出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。 なお、志望理由書は、志望理由、将来への展望、自己PRなどについて、これまでの勉学やさまざまな活動をとおして得た経験を基に記入する。(制限字数600字) ○口頭試問実施方法 (生物学科) 「生物基礎」及び「化学基礎」の内容を問う口頭試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。 (分子生命科学科) 「生物基礎」及び「化学基礎」の内容を問う口頭試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。 (食料資源学科) 口頭試問の開始時に、志願者は「生物基礎」または「化学基礎」のどちらか1科目を選択する。選択した科目の内容を問う口頭試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。

選 抜 方 法	(国際園芸農学科) 口頭試問の開始時に、志願者は「国際園芸農学科と関連性が高く、自身が興味・関心の高い科目」を1つあげる。その科目の内容を問う口頭試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。 (地域環境工学科) 口頭試問の開始時に、志願者は「地域環境工学科と関連性が高く、自身が興味・関心の高い科目」を1つあげる。その科目の内容を問う口頭試問を実施することにより、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認する。						
配点, 評価方法, 合否判定基準	【配点】 <table><tr><td>小論文</td><td>個人面接</td><td>合計</td></tr><tr><td>300</td><td>450</td><td>750</td></tr></table> 【評価方法】 (小論文) 論理的思考力、読解力、記述能力などを有しているかどうかを精査することにより、「学力」を評価し、点数化する。 (個人面接) 志望理由、興味・関心がある研究分野などについて、質疑応答を行うことにより、「行動力」、「意欲」を、口頭試問を行うことにより、「学力」を評価し、これらの評価を総合して点数化する。 【合否判定基準】 1. 小論文及び個人面接の総得点順に合格者を決定する。 2. 総得点が同点の場合は、個人面接の得点の高い者を上位とする。 3. 個人面接の得点が低いと不合格になることがある。 注)「専門高校枠」について (1)「専門高校枠」受験者から、総得点順に「専門高校枠」合格者を決定する。 (2) (1)の結果、「専門高校枠」で不合格となった者と、当該学科の「専門高校枠」以外の受験者を合わせて総得点順に合格者を決定する。	小論文	個人面接	合計	300	450	750
小論文	個人面接	合計					
300	450	750					

3. 総合型選抜Ⅱ

【大学入学共通テストの受験について】

総合型選抜Ⅱでは大学入学共通テストを課しています。本学が指定した教科・科目を受験しない場合は、合格者とはなりませんので、各学部の実施教科・科目及び配点等を参照のうえ、科目名、科目数には十分注意してください。

本学では、過年度の大学入学共通テストの成績は利用しません。

教科・科目名 学部・学科名		国語	地理歴史				公 民			数学①	数学②	理 科				外国語	情報			
		国語	地理総合、 地理探究	歴史総合、 日本史探究	歴史総合、 世界史探究	公共 地理総合／歴史総合／ 公共	公共、倫理	公共、政治・経済	公共（再掲） 地理総合／歴史総合／ 公共	数学Ⅰ	数学Ⅰ、 数学Ⅱ、 数学Ⅲ、 数学Ⅳ	数学Ⅰ、 数学Ⅱ、 数学Ⅲ、 数学Ⅳ	生物基礎／ 化学基礎／ 地学基礎	物理	化学	生物	地学		英語（リスニング含む）	情報Ⅰ
教 育 学 部		○ 1	○	○	○	○ 1	○	○	○	○ 1	○	○	○ 1	○	○	○	○	◎ 1	×	3教科3科目
医 学 部	医 学 科	◎ 1	○ 1	○	○	○ 1	○	○	○	×	◎ 1	◎ 1	×	○ 2	○	○	×	◎ 1	◎ 1	6教科8科目
	保 健 学 科	◎ 1	○ 1	○	○	○ 1	○	○	○	×	◎ 1	◎ 1	×	○ 2	○	○	×	◎ 1	◎ 1	6教科8科目

- (注1) ◎は必須、○は選択科目を示しています。
 (注2) □囲みの数字は受験科目数を表しています。
 (注3) 大学入学共通テストで受験できる教科・科目の組み合わせについては、大学入学共通テストの受験案内で確認してください。
 (注4) 「地理総合／歴史総合／公共」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」、「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。
 (注5) 「理科」は、「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」を選択する場合は、4つの出題範囲（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」）のうち、2つを選択解答してください。
 (注6) 「英語」には、リスニングを含みます。リスニングを受験しない場合は、出願資格がなくなります。ただし、リスニングを免除された者は除きます。配点については、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）の合計得点を各学部・学科等の配点に換算して利用します。なお、リスニングの受験を免除された者について、教育学部においてはリーディング（100点満点）の得点をそのまま利用し、医学部においてはリーディングの成績を200点満点に換算して利用します。

3-1 教育学部（総合型選抜Ⅱ）

学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース

学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻

養護教諭養成課程

出 願 要 件

次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者

【全志願者共通】

1. 弘前大学教育学部での勉学を強く希望する者
2. 本課程又は専攻のアドミッション・ポリシーを十分理解し、本課程又は専攻への志望動機が明確である者
3. 高等学校若しくは中等教育学校を令和3年4月以降に卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者
4. 次のとおり令和9年度大学入学共通テストの3教科3科目を受験する者

(国 語)「国語」 _____ から 1
 (地 歴)「地総、地探」,「歴総、日探」,「歴総、世探」,「地／歴／公」 _____ から 1
 (公 民)「公、倫」,「公、政・経」,「地／歴／公（再掲）」 _____ から 1
 (数 学)「数Ⅰ」,「数Ⅰ、数A」,「数Ⅱ、数B、数C」 _____ から 1
 (理 科)「物基／化基／生基／地基」,「物理」,「化学」,「生物」,「地学」 _____ から 1
 (外国語)「英語」 _____ を 1

注1)「国語」は100点満点に換算して利用します。

注2)「地／歴／公（地理総合／歴史総合／公共）」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」,「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。

注3)「物基／化基／生基／地基（物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎）」を選択する場合は、4つの出題範囲（「物理基礎」,「化学基礎」,「生物基礎」及び「地学基礎」）のうち、2つを選択解答してください。

注4)「英語」の配点については、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）とし、合計点（200点満点）を100点満点に換算して利用します。リスニングの受験を免除された者は、リーディング（100点満点）をそのまま利用します。

注5)受験を要する教科・科目数を超過して受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」,「公民」及び「理科」については、第1解答科目の成績を優先して用います。

【地域志向教員枠】

5. 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース（地域志向教員枠）については、前述の要件に加え、次の要件を備える者

- ・青森県採用教員として教職を目指す強い意志がある者
- ※出身高校、出身地等地域の制限は設けない
- ・地域教育課題の解決に意欲的に取り組もうとする者

6. 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース（地域志向教員枠）については、次の事項について遵守できる者

【入学後】

- ・カリキュラム上必須となっている、「地域志向教員養成プログラム」（新設予定）を履修すること。
- ・技術・家庭科サブコースに所属すること。

※プログラム及びサブコースの詳細は、本学教育学部ホームページにて公表を予定しています。

【卒業要件】

小学校教諭一種免許状に加え、中学校教諭一種若しくは二種免許状（技術）又は中学校教諭一種若しくは二種免許状（家庭）を取得すること。

なお、地域志向教員枠で入学し、「地域志向教員養成プログラム」を修了し、卒業（見込）となった者のうち、大学が推薦する者は、青森県公立学校教員採用候補者選考試験（小学校教諭）の第一次試験における一部が免除される見通しです。

選 抜 方 法

○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース

大学入学共通テストの得点，集団討論，個人面接及び出願書類（※）の評価を総合して選抜を行います。

（※）一般枠では，志望理由書のみ。

地域志向教員枠では，志望理由書及び地域志向教員志望理由書の2つ。

1. 集団討論

課題図書に関するテーマについて，グループで討論を行う。討論時間は1グループ当たり30分程度とする。

次の課題図書を試験当日までに入手し，読んでおくこと。討論のテーマを設定し，受験者同士で討論をさせる。

（課題図書）

光文社新書『わかったつもり－読解力が見つからない本当の原因－』

著者 西林克彦，発行 光文社，定価700円＋税，ISBN：9784334033224

2. 個人面接

○個人面接実施方法

（一般枠・地域志向教員枠共通面接）

複数の教員により受験者1人ずつの面接を行う。

1人当たり20分程度とする。

はじめに志望理由書の内容について，口頭でプレゼンテーションをさせる。

出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。

（地域志向教員枠独自面接）

1人当たり上記の共通面接20分程度に加えて，地域志向教員枠独自面接を10分程度で行い，合計30分程度とする。

はじめに地域志向教員志望理由書の内容について，口頭でプレゼンテーションをさせる。

出願の際に提出された調査書及び地域志向教員志望理由書を面接の参考資料として使用する。

3. 出願書類（志望理由書・地域志向教員志望理由書）

<志望理由書>

①教員になりたい理由（きっかけ），②課外活動やボランティア活動など，学校・家庭・地域において多様な人々と積極的に関わっていく主体的な活動や，活動の実施に向けた努力のプロセスを自由な形式で記載すること。

<地域志向教員志望理由書> ※地域志向教員枠で出願する者のみ

地域教育課題についての問題意識，地域での活動履歴等をもとにして，地域教育課題の解決に携わる主体的な活動や，活動の実施に向けた努力のプロセスを自由な形式で記載すること。

○学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻

大学入学共通テストの得点，集団討論，個人面接及び出願書類（志望理由書）の評価を総合して選抜を行います。

1. 集団討論

課題図書に基づき指示するテーマについて，グループでの討議・取りまとめ，全体での発表・討議等を行う。

集団討論は，それぞれのグループでの討議・取りまとめを概ね60分，その後，全体での発表・討議を概ね60分行う。

次の課題図書を試験当日までに入手し，読んでおくこと。課題図書は当日持参すること。

（課題図書）

『「不」自由でなにがわるい 障がいあってもみんなと同じ』

著者 今村美都，発行 新日本出版社，定価1,500円＋税，ISBN：9784406068703

2. 個人面接

複数の教員により志望理由，適性，意欲，関心を受験者1人ずつに問う個人面接（ロールプレイ等を含む）を行う。

1人当たり15分程度とする。

出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。

選 抜 方 法	3. 出願書類（志望理由書） 志望理由書は、①教員になりたい理由（きっかけ）、②課外活動やボランティア活動など、学校・家庭・地域において多様な人々と積極的に関わっていく主体的な活動や、活動の実施に向けた努力のプロセスを自由な形式で記載すること。 ○養護教諭養成課程 大学入学共通テストの得点、集団討論、個人面接及び出願書類（志望理由書）の評価を総合して選抜を行います。 1. 集団討論 「心と体の健康」に関するテーマについて、グループで討論を行う。 討論時間は1グループ当たり40分程度とする。 2. 個人面接 複数の教員により志望理由、適性、意欲、関心を受験者1人ずつに問う個人面接を行う。 1人当たり15分程度とする。 出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。 3. 出願書類（志望理由書） 志望理由書は、①教員になりたい理由（きっかけ）、②課外活動やボランティア活動など、学校・家庭・地域において多様な人々と積極的に関わっていく主体的な活動や、活動の実施に向けた努力のプロセスを自由な形式で記載すること。																																																																
配点, 評価方法, 合否判定基準	【配点】 ○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース（一般枠）、 学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻、養護教諭養成課程 <table><tr><th colspan="6">大学入学共通テスト</th><th rowspan="2">集団討論</th><th rowspan="2">個人面接</th><th rowspan="2">出願書類</th><th rowspan="2">合計</th></tr><tr><th>国語</th><th>地歴</th><th>公民</th><th>数学</th><th>理科</th><th>外国語</th></tr><tr><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td rowspan="2">200</td><td rowspan="2">200</td><td rowspan="2">50</td><td rowspan="2">750</td></tr><tr><td colspan="3">100</td><td colspan="2">100</td><td></td></tr></table> ○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース（地域志向教員枠） <table><tr><th colspan="6">大学入学共通テスト</th><th rowspan="2">集団討論</th><th rowspan="2">個人面接</th><th rowspan="2">出願書類</th><th rowspan="2">合計</th></tr><tr><th>国語</th><th>地歴</th><th>公民</th><th>数学</th><th>理科</th><th>外国語</th></tr><tr><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td rowspan="2">200</td><td rowspan="2">300^{※1}</td><td rowspan="2">100^{※2}</td><td rowspan="2">900</td></tr><tr><td colspan="3">100</td><td colspan="2">100</td><td></td></tr></table> ※1 個人面接300点のうち、100点は地域志向教員枠独自の面接の得点。 ※2 出願書類100点のうち、50点は地域志向教員志望理由書の得点。 【評価方法】 ○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース （集団討論） 討論を通して、①話し方・聞き方等のコミュニケーション能力、②発言内容（集団討論のテーマを正しく理解しているか、課題図書の内容を的確に掴んでいるか、一般論ではなく自分の言葉で発言しているか、議論に対して建設的な発言をしているか、等）、③教員としての適性等を把握し「学力」「行動力」「意欲」を評価する。	大学入学共通テスト						集団討論	個人面接	出願書類	合計	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	100	100	100	100	100	100	200	200	50	750	100			100			大学入学共通テスト						集団討論	個人面接	出願書類	合計	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	100	100	100	100	100	100	200	300 ^{※1}	100 ^{※2}	900	100			100		
大学入学共通テスト						集団討論	個人面接					出願書類	合計																																																				
国語	地歴	公民	数学	理科	外国語																																																												
100	100	100	100	100	100	200	200	50	750																																																								
100			100																																																														
大学入学共通テスト						集団討論	個人面接	出願書類	合計																																																								
国語	地歴	公民	数学	理科	外国語																																																												
100	100	100	100	100	100	200	300 ^{※1}	100 ^{※2}	900																																																								
100			100																																																														

配点,
評価方法,
合否判定基準

(個人面接)
一般枠・地域志向教員枠共通面接では、質疑応答等を通して、①自己表現能力、②教職への目的意識、③教員としての適性・資質・能力、④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し「行動力」と「意欲」を評価する。
地域志向教員枠独自面接では、地域教育課題についての問題意識、地域での活動履歴等をもとにして、地域教育課題の解決に向けての「行動力」と「意欲」を評価する。

(出願書類(志望理由書・地域志向教員志望理由書))
志望理由書は、志望理由や活動実績等の内容から、①自己表現能力、②教職への目的意識、③教員としての適性・資質・能力、④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し、主に「意欲」を評価する。
志望理由書はA～Dに4段階評価し、点数化する。各段階の評価点数は、A：50点、B：40点、C：30点、D：20点とする。
地域志向教員志望理由書は、地域教育課題についての問題意識、地域での活動履歴等を把握し、主に「意欲」を評価する。地域志向教員志望理由書はA～Dに4段階評価し、点数化する。各段階の評価点数は、A：50点、B：40点、C：30点、D：20点とする。

○学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻、養護教諭養成課程

(集団討論)
討論を通して、①話し方・聞き方等のコミュニケーション能力、②発言内容、③教員としての適性等を把握し「学力」「行動力」「意欲」を評価する。

(個人面接)
質疑応答等を通して、①自己表現能力、②教職への目的意識、③教員としての適性・資質・能力、④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し「行動力」と「意欲」を評価する。

(出願書類(志望理由書))
志望理由書は、志望理由や活動実績等の内容から、①自己表現能力、②教職への目的意識、③教員としての適性・資質・能力、④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し、主に「意欲」を評価する。
出願書類はA～Dに4段階評価し、点数化する。各段階の評価点数は、A：50点、B：40点、C：30点、D：20点とする。

【合否判定基準】

- 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース (一般枠)、
学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻、養護教諭養成課程
1. 大学入学共通テスト、集団討論、個人面接及び出願書類(志望理由書)の総得点順に合格者を決定する。
 2. 総得点が同点の場合は、個人面接、集団討論、大学入学共通テストの順序で得点の高い者を上位とする。
 3. 個人面接の得点が低いと不合格になることがある。
 4. 大学入学共通テストの得点が著しく低い場合は、不合格になることがある。

- 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース (地域志向教員枠)
1. 大学入学共通テスト、集団討論、個人面接及び出願書類(志望理由書・地域志向教員志望理由書)の総得点順に合格者を決定する。
 2. 総得点が同点の場合は、個人面接、集団討論、大学入学共通テストの順序で得点の高い者を上位とする。
 3. 個人面接の得点が低いと不合格になることがある。
 4. 大学入学共通テストの得点が著しく低い場合は、不合格になることがある。

注)「地域志向教員枠」と「一般枠」の取扱い
(1)「地域志向教員枠」受験者のうち合計点の点数順に上位5人を「地域志向教員枠」合格者とする。
(2)(1)の結果、「地域志向教員枠」において、不合格になった者を「一般枠」に組み入れる。すなわち、「一般枠」と「地域志向教員枠(のうち不合格者)」を合わせて、上位20人を「一般枠」合格者とする。
(3)(2)の合計点は、「地域志向教員枠」独自の出願書類(地域志向教員志望理由書)及び面接の加点を控除し、「一般枠」の配点により計算する。

3-2 医学部 医学科（総合型選抜Ⅱ）	
出 願 要 件	次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者 1. 次にあげる地域の高等学校若しくは中等教育学校を令和8年3月に卒業した者又は令和9年3月に卒業見込みの者 (1) 青森県内枠-----青森県 (2) 北海道・東北枠-----北海道、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 2. 下記の事項について確約できる者 - 大学在学中は青森県のキャリア形成卒前支援プランの内容に基づき、各種卒前支援プロジェクト（県が設定しているプロジェクト及び弘前大学のカリキュラム）に参加すること。 - 次の従事要件及び離脱要件に従うこと。 (i) 従事要件 卒業（医師国家試験合格を前提）後、直ちに青森県のキャリア形成プログラム（※）（対象期間は、臨床研修を含む9年間、うち4年間は医師が不足している地域での勤務）に則って医療に従事すること。 (ii) 離脱要件 (1) 退学したとき (2) 死亡したとき (3) 心身の重大な故障等があるとき (4) その他、青森県知事及び弘前大学長（以下「両者」という。）がやむを得ないと認める事由が存在し、かつ、それにより猶予期間を設定しても青森県のキャリア形成プログラムに則った勤務が困難であると認められるとき なお、(3)(4)については、その事由について両者に誠意を持って説明を行うこと。 (※) ・医療法に基づき、卒業後は青森県のキャリア形成プログラムが適用されます。 ・キャリア形成プログラム及びキャリア形成卒前支援プランについての詳細は、青森県庁ホームページにて確認願います。 (https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenko/iryoku/kyariakeiseiprogram.html) 3. 次のとおり令和9年度大学入学共通テストの6教科8科目をすべて受験する者 (国 語)「国語」を1 (地 歴)「地総、地探」,「歴総、日探」,「歴総、世探」,「地／歴／公」 から1 (公 民)「公、倫」,「公、政・経」,「地／歴／公（再掲）」 から1 (数 学)「数学Ⅰ、数学A」 を1 「数学Ⅱ、数学B、数学C」 を1 (理 科)「物理」,「化学」,「生物」 から2 (外国語)「英語」を1 (情 報)「情報Ⅰ」を1 注1)「地／歴／公（地理総合／歴史総合／公共）」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」,「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。 注2) 受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」,「公民」については、第1解答科目の成績を優先して用います。 注3)「英語」の配点については、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）の合計得点を利用します。なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディングの成績を200点満点に換算して利用します。 注4)「情報」の配点については、得点（100点満点）を50点満点に換算して利用します。
選 抜 方 法	大学入学共通テストの得点、個人面接及び総合論述の評価を総合して選抜を行います。 1. 個人面接 複数の教員により将来性、積極性、信頼感、自己統制、社会性を受験者1人ずつに問う個人面接を行う。 1人当たり25分程度とする。 出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。 2. 総合論述 与えられた資料の内容を的確に捉え、課題を見出し、自身の考えの思考過程及び最終的結論に関して論述させる。自身の考えを論理的に構築・表現する力が求められる。

配点,
評価方法,
合否判定基準

【配点】

大学入学共通テスト							個人面接	総合論述	合計
国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	情報			
200	100		200	200	200	50	200	200	1,350

【評価方法】

(個人面接)

志望理由, 医療に対する関心, 卒業後の進路等について, 質疑応答を行うことにより, 「行動力」, 「意欲」を評価する。

(総合論述)

資料の理解・解析・分析を通じて, 課題解決に必要な論理的思考力と問題発見能力の他, 医学分野における資質を以下の観点に基づき総合的・多角的に評価する。

1. 資料理解力: 資料の本質を捉え, 的確に解析する能力。
2. 問題発見能力: 与えられた情報や状況から課題を見出し, それを適切に定義する能力。
3. 論理的思考力: 課題に対する考えを論理的に構成する能力。
4. 分析力: 資料や課題の要点を整理し, 深く考察する能力。
5. 表現力: 明確かつ説得力のある形で自身の考えを示す能力。

【合否判定基準】

1. 大学入学共通テスト, 個人面接及び総合論述の総得点順に合格者を決定する。
2. 総得点が同点の場合は, 個人面接, 総合論述の順序で得点の高い者を上位とする。
3. 大学入学共通テストの合計点, 個人面接の得点及び総合論述の得点のうち, いずれかの得点が著しく低い場合, 不合格になることがある。

注)「青森県内枠」と「北海道・東北枠」の取扱い

- (1)「青森県内枠」受験者のうち合計点の点数順に上位27人を「青森県内枠」合格者とする。
- (2)「北海道・東北枠」受験者のうち合計点の点数順に上位15人を「北海道・東北枠」合格者とする。

3-3 医学部 保健学科（総合型選抜Ⅱ）	
出 願 要 件	次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者 1. 高等学校若しくは中等教育学校を令和3年4月以降に卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者、又は高等専門学校3年次を令和9年3月修了見込みの者 2. 人物、学力ともに優れ、本学科及び志望する専攻への強い進学意欲がある者 3. 次のとおり令和9年度大学入学共通テストの6教科8科目をすべて受験する者 (国 語)「国語」 を 1 (地 歴)「地総, 地探」, 「歴総, 日探」, 「歴総, 世探」, 「地／歴／公」 から 1 (公 民)「公, 倫」, 「公, 政・経」, 「地／歴／公（再掲）」 から 1 (数 学)「数学Ⅰ, 数学A」 を 1 「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 を 1 (理 科)「物理」, 「化学」, 「生物」 から 2 (外国語)「英語」 を 1 (情 報)「情報Ⅰ」 を 1 注1)「地／歴／公（地理総合／歴史総合／公共）」を選択する場合は、3つの出題範囲（「地理総合」, 「歴史総合」及び「公共」）のうち、2つを選択解答してください。 注2)受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」, 「公民」については、第1解答科目の成績を優先して用います。 注3)「英語」の配点については、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）の合計得点を利用します。なお、リスニングの受験を免除された者については、リーディングの成績を200点満点に換算して利用します。 注4)「情報」の配点については、得点（100点満点）を50点満点に換算して利用します。
選 抜 方 法	大学入学共通テストの得点、小論文、個人面接及び出願書類（調査書・志望理由書）の評価を総合して行います。 1. 小論文 専攻ごとに1つのテーマについて論述させる。（制限字数800字）60分 2. 個人面接 複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 出願の際に提出された調査書及び志望理由書を面接の参考資料として使用する。 3. 出願書類（調査書・志望理由書） 調査書については、高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得などから判断し、高校時代の活動を評価する。 志望理由書は、志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について、これまでの勉学やさまざまな活動を通して得た経験を基に600字以内で自分の考えを記入させる。

配点,
評価方法,
合否判定基準

【配点】

大学入学共通テスト							小論文	個人面接	出願書類	合計
国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	情報				
200	100		200	200	200	50	100	300	100	1,450

【評価方法】

(小論文)

与えられた課題に対して、主として論理的に自分の考えや意見を論述しているかを採点評価する。

(個人面接)

個人面接（複数の教員で受験者1人ずつの面接）を行い、面接を通して志望専攻への関心、意欲、適性等を客観的に評価し、教員個々の評価を総合して点数化する。

(出願書類（調査書・志望理由書）)

調査書については、高校時代の履修状況や様々な活動などにより、「行動力」を評価する。

志望理由書については、本学科に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「意欲」を評価する。

調査書及び志望理由書を総合的に評価し、A～Dの4段階に点数化する。各段階の評価点数は、A：100点、B：75点、C：50点、D：25点とする。

【合否判定基準】

1. 大学入学共通テスト、小論文、個人面接及び出願書類（調査書・志望理由書）の総得点順に合格者を決定する。
2. 総得点が同点の場合は、小論文、個人面接、出願書類（調査書・志望理由書）の順序で得点の高い者を上位とする。

Ⅲ. 私費外国人留学生入試

1. 私費外国人留学生入試の実施方法等

私費外国人留学生入試では、日本国籍を有しない者を対象に、日本留学試験及び各学部等が課す教科・科目に係る個別テスト、小論文試験、面接試験等によって入学者の選抜を実施します。志望する学科等が課す全ての教科・科目に係る個別テスト等を受験しなければ、合格者とはなりません。

大学入学共通テストは免除しますが、日本語能力試験（JLPT）のCEFRレベルがB2以上であることを出願の条件とします。

合格した場合の入学時期は令和9年4月とし、入学後の教育は他の選抜により入学した者と同様に行います。

2. 出願要件

入学を志願できる者は、次の(1)、(2)、(3)及び(4)の全てに該当する者に限ります。

- (1) 日本の国籍を有しない者で、出入国管理及び難民認定法の規定により、大学入学に支障のない在留資格を有する者又は取得できる見込みの者（※1）
- (2) 次のいずれかに該当する者
 - ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者、若しくはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - ② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者
 - ③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者
 - ④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者
 - ⑤ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（GCEAレベル）資格又はインターナショナル・ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル（インターナショナルAレベル）資格を有する者
 - ⑥ 国際的な評価団体（WASC, CIS, ACSI, NEASC, Cognia, COBIS）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設の12年の課程を修了した者及び令和9年3月31日までに修了見込みの者（CISの旧名称であるECISの認定を受けた外国人学校の12年の課程を修了した者も含む）
 - ⑦ 欧州連合構成国において大学入学資格として認められているヨーロッパ・バカロレア資格を有する者
 - ⑧ 個別の入学資格審査により、我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校を修了した者又は修了見込みの者と認めた者で、令和9年3月31日までに18歳に達する者（※2）
- (3) 独立行政法人日本学生支援機構が行う「2026年度日本留学試験」（6月又は11月）において、本学が課す科目を指定した出題言語により受験した者（※3）（※4）

なお、理工学部においては、受験を要する科目の総得点が満点の70%（850点満点中595点）以上である者
- (4) 2025年7月1日以降に日本語能力試験（JLPT）のCEFRレベルがB2以上である者

（※1）日本国籍を有していない者であっても、日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含みます）を卒業した者及び令和9年3月卒業見込みの者並びに日本国の永住許可を得ている者は、一般選抜の入学志願者と同じ扱いになり、この入試には出願できません。

（※2）出願要件(2)⑧の入学資格審査を申請する者は、募集要項で締切を確認のうえ、入試課へ申請書を提出してください。

（※3）「2026年度日本留学試験」を複数回受験している場合は、利用する成績は受験者が指定するいずれか1回となります。複数の試験に分けての受験結果は認めません。

（※4）出題言語の詳細については、55ページの「5. 選抜方法等 5-1. 日本留学試験」を参照してください。

3. 出願手続

出願書類等を一括して私費外国人留学生入試募集要項に添付の封筒に入れ、郵送（書留速達）してください。

4. 出願書類等

次の書類を提出してください。なお、外国語で作成された証明書等には、必ず日本語訳を添付してください。

※出願の際は学生募集要項を必ず確認してください。

1. 志願票	募集要項に添付の様式により提出してください。
2. 写真票, 受験票	募集要項に添付の様式により提出してください。 志願学部学科等, 志願者氏名を記入してください。 写真貼付欄には, 出願前3ヶ月以内に撮影した上半身, 脱帽, 正面向きの写真(タテ4cm×ヨコ3cm)を貼り付けてください。本人確認に使用するため鮮明なものを使用してください。 なお, 顔写真の加工・修正は認めません。加工・修正があった場合は, 不正行為として扱うことがあります。
3. 「振替払込受付証明書(大学提出用)」貼付台紙	検定料17,000円を添付の「払込取扱票」を用いて, 最寄りの郵便局・ゆうちょ銀行の窓口で払い込んでください。 払込み済みの「振替払込受付証明書(大学提出用)」を添付の貼付台紙に貼り付けて提出してください。
4. 受験票返送用封筒	募集要項に添付の様式により提出してください。 受験票の送付に使用するので, 確実に受信できる日本国内のあて先を記入し, 郵便切手410円分(速達分)を貼付して提出してください。
5. 合格通知用封筒	募集要項に添付の様式により提出してください。 合格通知書の送付に使用するので, 確実に受信できる日本国内のあて先を記入してください。
6. 卒業(修了)証明書・成績証明書(日本語訳を添付すること)	a. 出願要件(2)の①の学校教育における12年の課程を修了(見込み)に該当する者 - 最終出身学校(日本の高等学校に相当する学校)の卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書 - 最終出身学校(日本の高等学校に相当する学校)の成績証明書 b. 出願要件(2)の①の文部科学大臣の指定した者に該当する者 - 当該課程の修了証明書及び成績証明書等又は検定の合格証書及び成績証明書 c. 出願要件(2)の②に該当する者 - 国際バカロレア資格証書のコピー及び最終試験6科目の成績評価証明書 d. 出願要件(2)の③に該当する者 - 一般的大学入学資格証明書とこれに記載されている成績のコピー e. 出願要件(2)の④に該当する者 - バカロレア資格証書のコピー及びバカロレア資格試験成績証明書(フランス共和国のバカロレア資格証書が未発行の場合は, 試験成績証明書をもって代えることができます。) f. 出願要件(2)の⑤に該当する者 - 成績評価証明書のコピー g. 出願要件(2)の⑥に該当する者 - 出身教育施設(日本の高等学校に相当する施設)の発行する修了証明書又は修了見込証明書及び成績証明書 - 当該教育施設が評価団体から認定を受けた証明書 h. 出願要件(2)の⑦に該当する者 - ヨーロッパ・バカロレア資格証書のコピー及びヨーロッパ・バカロレア資格試験成績証明書 注) 成績証明書記載事項のうち科目名, 成績評価等が符号又は略字により表示されている場合は, 必ずその説明書を付してください。

7. 日本語能力試験 (JLPT) の「認定結果及び 成績に関する証明書」 (CEFR レベル B2 以上)	2025 年 7 月 1 日以降に受験した日本語能力試験 (JLPT) の CEFR レベル B2 以上の「認定結果及び成績に関する証明書」を提出してください。 ※「認定結果及び成績に関する証明書」は発行・配達に時間がかかるため、出願時に間に合うよう余裕をもって発行手続を行ってください。 合格時に送付される「合否結果通知書／日本語能力認定書」ではありませんのでご注意ください。
8. 日本留学試験の受験票	「2026 年度日本留学試験」の受験票のコピーを提出してください。
9. 【日本国内在住者】 住民票の写し又は住民票記載事項証明書	住民票の写し又は住民票記載事項証明書を提出してください。 ※国籍、在留資格、在留期間が記載されたもの ※個人番号 (マイナンバー) の記載されていないもの
10. 【日本国外在住者】 パスポート等 (日本語訳を添付すること)	パスポート (国籍を証明する部分) のコピー、本国の戸籍抄本又は市民権等の証明書のうち、いずれか 1 つを提出してください。

注) 証明書等は、「コピー」と指示がない限り全て原本を提出してください。

5. 選抜方法等

入学者の選抜は、「2026年度日本留学試験」の成績と本学が実施する教科・科目に係る個別テスト等の成績を総合して行います。

5-1. 日本留学試験

成績を利用できる日本留学試験の実施月は、令和8(2026)年6月又は11月とします。

学部・学科等			科 目						選択方法	出題言語	
			日本語	総合科目	数学 (コース)	理 科					
						物理	化学	生物			理科の受験科目数
人 文 社 会 科 学 部			◎	◎	◎1又は2						日本語 又は 英語
教 育 学 部	学 員 学 校 養 成 教 育 教 師 課程	初等中等教育専攻	◎	◎	◎1又は2					総合科目又は 理科を選択	日本語 又は 英語
		特別支援教育専攻	◎		◎2	○	○	○	○から2科目		
	養 護 教 諭 養 成 課 程		◎	◎	◎1又は2					総合科目又は 理科を選択	
			◎		◎1又は2	○	○	○	○から2科目		
医 学 部	医 学 科		◎		◎1又は2	◎	◎		◎を2科目		日本語
	保 健 学 科	看 護 学 専 攻	◎		◎1又は2		◎	◎	◎を2科目		日本語
		放射線技術科学専攻	◎		◎2	◎	◎		◎を2科目		
		検査技術科学専攻	◎		◎1又は2	○	○	○	○から2科目		
		理学療法学専攻	◎		◎1又は2	○	○	◎	◎生物必修、さらに○から1科目		
		作業療法学専攻	◎		◎1又は2	○	○	○	○から2科目		
	心 理 支 援 科 学 科		◎	◎	◎1又は2						日本語
理 工 学 部			◎		◎2	◎	◎		◎を2科目		日本語
農 学 生 命 科 学 部			◎		◎1又は2	○	○	○	○から2科目		日本語 又は 英語

注) ◎印は必修科目, ○は選択科目を表します。

5-2. 本学が実施する教科・科目に係る個別テスト等

学部・学科等				教科・科目に係る 個別テスト	小論文	実技	面接	
人 文 社 会 科 学 部					○		○	
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	初等中等教育専攻	小 学 校 コ ー ス			○		○
			中学校コース	国 語 専 修 社 会 専 修 数 理 専 修		○		○
				音 楽 専 修 美 術 専 修			○	○
				保 健 体 育 専 修 英 語 専 修		○		○
		特 別 支 援 教 育 専 攻			○		○	
		養 護 教 諭 養 成 課 程			○		○	
	医 学 部	医 学 科			○	○		○
保 健 学 科				○		○		
心 理 支 援 科 学 科				○		○		
理 工 学 部							○	
農 学 生 命 科 学 部					○		○	

【教科・科目に係る個別テストについて】

医学部医学科の教科・科目に係る個別テストでは、「英語」の筆記試験を行います。

【小論文について】

課題を与え、日本語で論述させます。(制限字数800字)

5-3. 実技検査の方法等

学部・課程等		実施方法等
教育学部 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース	音楽専修	I. 次の①及び②の項目をどちらも受験する。 ①ツェルニー 100番練習曲集, ツェルニー 30番練習曲集, ツェルニー 40番練習曲集の中から, 任意の1曲(楽譜持込可)をピアノで演奏すること。 ②独唱又は独奏(ピアノを除く)のいずれかを選択し, 暗譜で演奏すること。曲目は自由, 演奏時間は原則として10分以内とする。 II. 実技のあと, 口頭試問を行う。
	美術専修	美術実技は次のとおりとする。(3時間) デッサン……鉛筆デッサンの用具を持参してください。 (イーゼル, カルトンは不要)

5-4. 面接の実施方法

学部	実施方法等
人 文 社 会 科 学 部	複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。1人当たり20分程度とする。 (英語の基礎学力に関する試問を含む)
教 育 学 部	複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。1人当たり30分程度とする。 (基礎学力に関する試問を含む)
医 学 部	複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。1人当たり15分程度とする。 (保健学科では, 基礎学力に関する試問を含む)
理 工 学 部	複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。1人当たり20分程度とする。 (基礎学力に関する試問を含む)
農 学 生 命 科 学 部	複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。1人当たり20分程度とする。 (基礎学力に関する試問を行うことがある)

6. 配点, 評価方法

人文社会科学部	小論文及び面接については、次のとおり点数化して評価する。なお、日本留学試験の成績は総合判定の資料とする。 小論文100点, 面接100点 合計200点 (小論文) 課題についての自分の考えを的確に述べていること, 論旨が明確であること, 日本語の文章として適切であること等を総合的に評価する。 (面接) 面接を通して志望学部・課程への関心, 意欲, 適性等を客観的に評価する。
教育学部	小論文, 実技及び面接については、次のとおり点数化して評価する。なお、日本留学試験の成績は総合判定の資料とする。 小論文又は実技100点, 面接100点 合計200点 (小論文) 論述の内容が, 与えられた課題に則しており, 論理的であること, 自分の考えや意見が明確であること, また言葉づかいが正確であること等を総合的な評価の基準とする。 (実技) 音楽に関する基礎的な能力を採点評価する。(音楽) 基本的な描写能力を採点評価する。(美術) (面接) 志望専攻への動機・興味・関心・意欲・資質等を総合的に評価する。
医学部医学科	日本留学試験, 英語, 小論文, 面接それぞれを A, B, C, D, E の5段階評価とする。 (日本留学試験) 受験を要する科目の合計点を5段階評価する。 (英語) 英語に関する基礎的な学力を採点評価する。 (小論文) 課題についての自分の考えを明確に論述しているかどうかを日本語能力も含め, 総合的に採点評価する。 (面接) 医学への関心, 意欲, 適性等を評価する。
医学部保健学科	日本留学試験, 小論文及び面接の結果を総合して行う。 A, B, C, D, E の5段階評価とする。 (日本留学試験) A, B, C, D, E の5段階評価とする。 (小論文) 複数の教員で採点し, A, B, C, D, E の5段階評価とする。 (面接) 複数の教員で行い, A, B, C, D, E の5段階評価とする。
医学部心理支援科学科	日本留学試験, 小論文及び面接の結果を総合して行う。 A, B, C, D, E の5段階評価とする。 (日本留学試験) A, B, C, D, E の5段階評価とする。 (小論文) 複数の教員で採点し, A, B, C, D, E の5段階評価とする。 (面接) 複数の教員で行い, A, B, C, D, E の5段階評価とする。

理工学部	面接については、次のとおり点数化して評価する。なお、日本留学試験の成績は総合判定の資料とする。 面接100点 (面接) 志望学部・学科への興味・関心・意欲・適性及び基礎学力を客観的に評価する。
農学生命科学部	小論文及び面接については、次のとおり点数化して評価する。なお、日本留学試験の成績は総合判定の資料とする。 小論文200点、面接200点 合計400点 (小論文) 課題について題意を適切に理解し、自分の考えや意見を的確に論述しているか等について総合的に評価する。 (面接) 志望学部・学科への興味・関心・意欲・適性を客観的に評価する。

7. 安全保障輸出管理について

弘前大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人弘前大学安全保障輸出管理規程」を定め、物品の輸出、技術の提供及び外国人留学生の受入れについて厳格な審査を実施しています。

規制されている事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究できない場合がありますので、注意してください。

外国人留学生は、入学時に「外国為替及び外国貿易法」を遵守する誓約書に署名し、提出していただきます。

8. 日本留学試験及び日本語能力試験（JLPT）に関する問合せ先

8-1. 日本留学試験

- (1) 日本留学試験（EJU）ウェブサイト
<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/eju/index.html>
- (2) 日本留学試験受付センター
住所) 〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸2-6-26 HI横浜ビル 7 階
電話) 0570-55-0585* FAX) 045-620-7962
※一部携帯電話、IP 電話及び海外からの電話は、045-620-7243

8-2. 日本語能力試験（JLPT）

- (1) 日本語能力試験（JLPT）ウェブサイト
<https://www.jlpt.jp/>
- (2) 日本語能力試験（JLPT）（日本国内）受付センター
電話) 03-6686-2974

Ⅳ. 共 通 事 項

1. 入学検定料

入学検定料	17,000円
-------	---------

- (1) 選抜方法にかかわらず、入学検定料は上記の金額です。
- (2) 一般選抜において、前期日程、後期日程の両方に出願する場合は、それぞれ入学検定料を納付する必要があります。
- (3) 既納の入学検定料は、下記①から③のいずれかの場合を除き返還しません。ただし、下記④又は⑤に該当する場合は、弘前大学学則第24条により13,000円を返還します。
 - ①入学検定料を払い込んだが出願書類を提出しなかった場合
 - ②入学検定料を払い込んだが出願書類が受理されなかった場合
 - ③誤って入学検定料を二重に払い込んだ場合
 - ④一般選抜・前期日程（医学部医学科）の第1段階選抜の結果、不合格となった場合
 - ⑤一般選抜において、出願受付後に、大学入学共通テストの受験科目不足等により出願無資格者であることが判明した場合

2. 入学検定料の免除について

弘前大学では、自然災害による被災者の経済的負担を軽減し、受験者の進学機会の確保を図るために、令和8年度に実施する入学者選抜試験について、以下のとおり入学検定料を免除する措置を講じます。

2-1. 免除対象となる入学者選抜試験

令和8年度に実施する学部入試（編入学入試を除く）及び大学院入試（科目等履修生、研究生及び聴講生は対象外）

2-2. 対象者

免除対象となる入学者選抜試験の志願者で、東日本大震災（平成23年3月11日発生）及び令和8年度に災害救助法が適用された地域で被災し、次のいずれかに該当する方

- (1) 学資負担者が居住していた家屋（自己所有のものに限る）が、全壊、大規模半壊、半壊、流失と認定された方
東日本大震災においては、岩手県、宮城県及び福島県の全市町村並びに青森県、茨城県、栃木県及び千葉県の災害救助法適用市町村に居住しており、居住していた家屋が上記の被害認定を受けた方
- (2) 学資負担者が災害により死亡または行方不明となった方
- (3) 居住地が福島第一原子力発電所の事故により、帰還困難区域、居住制限区域または避難指示解除準備区域に指定された方

注）令和8年度災害救助法の適用を受けない地域であっても、罹災証明書等の提出により対象となる場合がありますので、学務部入試課へお問い合わせください。

2-3. 申請の方法

事前に学務部入試課へ電話等で問い合わせのうえ、所定の申請書に証明書類を添えて、出願書類とともに提出してください。この場合は、出願時に入学検定料を払い込まないでください。

詳細については、本学入試情報ホームページでご確認ください。

3. 障害等のある入学志願者の事前相談について

病気・負傷や障害等のある入学志願者のうち、受験上及び修学上特別の配慮や措置を必要とする場合は、各募集要項で締切を確認のうえ、事前に学務部入試課へ相談してください。

4. 合格発表について

合格者には、「合格通知書」を合格発表後速やかに出願時の登録住所あてに速達で郵送します。合格者の受験番号は本学ホームページでも確認できますが、ホームページの掲載情報は本学の情報提供サービスの一環として行うものであり、「合格通知書」をもって正式な通知とします。

5. 入学手続について

5-1. 入学手続方法

合格者へは、「合格通知書」送付時に入学手続に必要な書類を送付します。詳細については、各募集要項で公表しますが、本学の入学手続については、下記にご留意願います。

(1) 一般選抜

- ① 所定の期日までに入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとみなします。
- ② 本学に入学手続を行った者は、他の国公立大学・学部に入学者を行うことはできません。また、他の国公立大学・学部において入学手続を行った者は、これを取り消して本学に入学することはできません。
- ③ 本学の前期日程に合格し入学手続を行った者は、後期日程試験を受験しても合格者となることはできません。

(2) 総合型選抜

- ① 合格者は、本学に入学しなければなりません。特別な事情によって入学を辞退する場合は、入学手続日までに本学の許可を得なければなりません。
- ② 入学手続完了者は、一般選抜を受験しても合格者となることはできません。
- ③ 本学への入学手続を行わず、辞退の手続も行っていない場合は、その後、本学及び他の国公立大学の一般選抜を受験しても合格者となることはできません。

(3) 私費外国人留学生入試

所定の期日までに入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとみなします。

5-2. 納付金

区分	金 額	納付時期
入 学 料	282,000 円	入学手続時
授 業 料	535,800 円（年額） ┌ 前期分 267,900 円 └ 後期分 267,900 円	5 月、10 月に半期分納付

注1) 入学料及び授業料は現時点の金額です。入学時までに入学料及び授業料が改定された場合は、それぞれ改定後の額となります。

また、在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

注2) 納付済みの入学料については、入学手続完了後は返還しません。

6. 欠員補充について

(1) 総合型選抜

総合型選抜の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を一般選抜（前期日程）の募集人員に加えます。

(2) 一般選抜

入学手続締切日において入学定員に欠員が生じた場合は、追加して合格者を決定することがあります。追加合格者の決定は、追加合格候補者に該当する受験者本人に直接連絡し、入学する意思を確認した者について行います（追加合格候補者は発表しません）。詳細については、募集要項で公表します。

7. 入学試験個人成績の開示について

令和9年度入学試験における個人成績を、志願者の申請により開示します。詳細については、各募集要項で公表します。

8. 個人情報の取扱いについて

(1) 利用目的

志願者から提出された個人情報は、入学者選抜のほか、次の範囲で利用します。

- ① 入学者の学籍管理及び学生生活支援に関すること。
- ② 入学者選抜の改善のための調査・研究に関すること。
- ③ その他、教育・研究に関すること。

上記の利用目的に係る個人情報の取扱い業務の全部又は一部を外部に委託する場合があります。

(2) 国公立大学間の情報提供

国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、合否及び入学手続等に関する個人情報（氏名、性別、生年月日、高等学校等コード及び大学入学共通テスト受験番号）を大学入試センター及び併願先国公立大学へ提供します。

(3) 第三者への提供

入学後の学生生活支援等のため、志願者の希望に基づき、弘前大学と業務委託契約を締結している弘前大学生生活協同組合から資料（新生活サポート、教科書教材、アパート等の情報パンフレット）を送付します。資料請求を希望する方の同意がある場合に限り、弘前大学生生活協同組合へ個人情報（氏名、住所、電話番号、本学受験番号）を提供します。同意の有無については、出願時に確認します。

(4) EU一般データ保護規則（GDPR）の適用に係る手続きについて

欧州経済領域（EEA）に在住する者は、EU一般データ保護規則（General Data Protection Regulation（GDPR））の適用を受けるため、別に手続きが必要となるので、事前に下記連絡先に連絡してください。

弘前大学学務部入試課 電 話：0172-39-3122 FAX：0172-39-3125 メール：nyushi@hirosaki-u.ac.jp
--

9. 募集要項等の公表について

要項等の名称		公表時期
入学者選抜要項（本冊子）		7月
学生募集要項	<u>総合型選抜</u> 私費外国人留学生入試	7月
	<u>一般選抜</u>	11月（予定）

注1）一般選抜及び総合型選抜は、インターネット出願となります。

募集要項は紙媒体では発行しませんので、弘前大学入試情報ホームページ上でご確認願います。

注2）紙媒体で発行する、選抜要項、募集要項及び大学パンフレットの請求方法は、本学入試情報ホームページ上でご確認願います。

10. 「こども性暴力防止法（学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律）」について

こども性暴力防止法が成立し、2026年12月25日から施行される予定です。

この法律により、実習を行う前に、実習施設から法に基づく「犯罪事実確認」が行われる可能性があります。確認の結果、特定性犯罪の前科があると判断された場合には、実習を行うことはできません。

教育学部の学生は教育実習が卒業要件となるため、入学手続き時に①同意書（犯罪事実確認等に関する同意）及び②誓約書（特定性犯罪前科がないことの誓約）を提出していただきます。提出できない場合は入学を許可できませんので、内容を十分に理解のうえ、出願してください。

教育学部以外の学部でも、教育実習の前に、提出していただきますので、教員免許状の取得を希望する方は、必ず確認してください。

【参考】制度の詳細はこちらをご覧ください。

こども家庭庁ホームページ：<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/efforts/koseibouhou>

弘前大学入試情報ホームページ：<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/news/information/17029/>

V. 各学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人文社会科学部

1) 人文社会科学部が求める学生像

人文社会科学部では、多元的な文化理解と現代社会に対する多面的理解を重視したカリキュラムを提供することによって、地域文化を含む自国の文化を創造し発信する力、地域課題を含めて現代社会が直面している諸課題を発見・分析・解決する力を養い、社会に貢献する人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 人文科学と社会科学の諸領域（考古学、歴史学、文学、哲学、法学、経済学、経営学、社会学等）に関わる専門的知識・技能を習得するための基礎学力
- 学んだ専門的知識・技能を文化の振興や社会の発展に役立てるための行動力
- 人間文化の発展に貢献することや現代社会が直面する複雑な問題を解決することへの意欲

また、人文社会科学部の各課程は、それぞれ次のような学生を求めます。

【文化創生課程】

- 地域社会の発展のために、地域の文化振興や地域のグローバル化の推進等の活動を担っていけるような行動力のある人
- 国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

【社会経営課程】

- 地域社会の発展のために、自治体の政策立案や地域産業の育成、地域住民との協働による問題解決等に貢献していくことができるような行動力のある人
- 少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- 教科・科目の学習を通して、歴史文化や社会に関する基礎知識をはじめ、論理的思考力・情報処理能力、コミュニケーション能力等を身に付けておく必要があります。
- グループ学習等の体験型学習を通して、自分自身の考えを積極的に発信していく力や学習に主体的に参加する姿勢を身に付けておく必要があります。
- 物事を多面的に理解し、複雑化した問題を的確に分析する力を養うために、国内外の様々な問題に広く関心を持つ姿勢や、多様な分野の学習に積極的に取り組む姿勢を身に付けておく必要があります。

3) 入学者選抜の基本方針

人文社会科学部では、人文社会科学分野の人材として育つにふさわしい学力・行動力・意欲を有する学生を選抜する目的で、多面的・総合的な評価方法により、別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	○		
	教科・科目に係る個別テスト				
一般選抜 (後期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の成果を幅広く応用・展開し、様々な課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	○		
	小論文				
総合型選抜Ⅰ	小論文	本学部のアドミッション・ポリシーを正しく理解した上で、本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	○	○	○
	個人面接				
	調査書				
	学習計画書				

【別表2】選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜方法の内容と評価要素
小論文	一般・後期	人間の営みや現代社会が直面している課題等について、文献等の資料を提示し自分の考えを述べさせます。 資料が示していることを十分に理解しているか、設問に対して自分の考えを論理的に述べているか、日本語の文章表現として適切であるか等を判断基準として、「学力」を評価します。
	総合Ⅰ	一つのテーマについて論述させます。 設問に対して自分の考えを論理的に述べているか、日本語の文章表現として適切であるか等を判断基準として、「学力」を評価します。
個人面接	総合Ⅰ	自己PR、志望理由と入学後の学習計画、大学卒業後の進路等について口頭発表させ、発表内容に関する質疑応答を行います。 アドミッション・ポリシーを念頭に置いた志望課程への関心と意欲が高いか、大学入学後の学習計画と将来への見通しについては明確か、質疑応答が的確になされているか等を判断基準として、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価します。
調査書	総合Ⅰ	高等学校での科目の履修状況と学習成果、教科外活動の状況、社会貢献活動・各種の資格の取得状況等を判断基準として、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価します。
学習計画書	総合Ⅰ	志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について、これまでの勉学や様々な活動を通して得た経験を元に記述させます。 アドミッション・ポリシーを理解し自己PRができているか、志望理由が明確で学習計画は的確に立てられているか、将来の進路希望は明確か等を判断基準として、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価します。

教 育 学 部

1) 教育学部が求める学生像

教育学部では、子どもの発育発達や能力に応じた主体的な学びを支援することのできる、学校現場で活躍できる専門力と実践力を兼ね備えた教員を養成することを目的としています。この観点から「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・将来、教員になるための素養と、入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- ・自立した個人として、または多様な人々と協働して、地域社会における教育に参画していこうとする行動力
- ・教育者を目指して知的・人格的に成長していこうとする意欲

また、教育学部の各課程・専攻は、それぞれ次のような学生を求めます。

【学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻】

- ・小・中学校等の教員として必要な専門力・実践力を身に付けるために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・将来、小・中学校等の教員として、学校教育に貢献したいという強い意志と、明確な目標を持っている人

【学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻】

- ・障害等の特別な教育的ニーズを教育、心理、病理などの多方面から理解し支援するために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・将来、特別支援学校等の教員として、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の自立に向けた活動に関わることを強く希望する人

【養護教諭養成課程】

- ・養護教諭として必要な専門力・実践力を身に付けるために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・子どもの健康に高い関心を持ち、将来、養護教諭として学校教育に貢献するという強い意志を持つ人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・高等学校で履修する教科・科目の基礎的理解だけでなく、取得する教員免許に則した深い学び、課題の把握とその解決に向けたプロセスをわかりやすく表現や説明できる力を習得しておくことが必要です。
- ・将来、教員として同僚や児童・生徒、保護者とのコミュニケーションを円滑に育めるように、課外活動やボランティア活動など、多様な人々と積極的に関わっていく主体的な経験が望まれます。
- ・日頃から社会情勢や教育問題に対して関心を持ち、困難な問題にも安易にあきらめることなく乗り越えるための努力を惜しまない姿勢と、自己を高める継続的な向上心を身に付けておくことが必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

教育学部では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学 力	行 動 力	意 欲
一 般 選 抜 (前期)	小学校コース，中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修を除く），特別支援教育専攻，養護教諭養成課程		○		
	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価すると共に， 教員としての適性・資質・能力，教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心を評価するという観点から， 左記の方法により総合評価して選抜します。			
	教科・科目に係る 個別テスト				
	個人面接				
一 般 選 抜 (後期)	小学校コース		○		
	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価すると共に， 教員としての適性・資質・能力，教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心を評価するという観点から， 左記の方法により総合評価して選抜します。			
	個人面接				
総合型選抜Ⅰ	中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修）		○		○
	個人面接	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで， 本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めるのに必要な，音楽・美術・保健体育の教員としての基礎的な学力（技能及び知識）と資質・適性，教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心を評価するという観点から， 左記の方法により総合評価して選抜します。			
	実技試験				
総合型選抜Ⅱ	小学校コース，特別支援教育専攻，養護教諭養成課程			○	○
	共通テスト	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで， 本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めるのに必要な，教員としての適性・資質・能力，教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心を評価すると共に， 高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価するという観点から， 左記の方法により総合評価して選抜します。			
	個人面接				
	集団討論				
	志望理由書				

注）一般選抜（前期・後期）及び総合型選抜Ⅱの個人面接では，調査書を参考資料とします。

注）総合型選抜Ⅰの音楽専修及び美術専修の個人面接では，調査書及び志望理由書を参考資料とします。

注）総合型選抜Ⅰの保健体育専修の個人面接では，調査書，志望理由書及び運動歴調査書を参考資料とします。
なお，運動歴調査書は実技の得点に含めます。

【別表2】選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜方法の内容と評価要素
個 人 面 接	一般・前期	質疑応答等を通して、①自己表現能力、②教職への目的意識、③教員としての適性・資質・能力、④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し「行動力」と「意欲」を評価します。 総合Ⅰの美術専修及び保健体育専修においては、それぞれ美術と保健体育に関する知識を問う口頭試問も行い、「学力」も評価します。
	一般・後期	
	総合Ⅰ	
	総合Ⅱ	
集 団 討 論	総合Ⅱ	【小学校コース、特別支援教育専攻、養護教諭養成課程】 与えられたテーマについてグループで討論を行います。 討論を通して、①話し方・聞き方等のコミュニケーション能力、②発言内容、③教員としての適性等を把握し「学力」「行動力」「意欲」を評価します。
実 技 試 験	総合Ⅰ	【中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修）】 事前に提示した課題または基礎運動能力テストについて実技試験を行います。 基本的な能力・技術等を把握し、音楽・美術・保健体育の教員として必要な「学力」（技能・運動能力）を評価します。 音楽専修においては、演奏楽曲に関する知識等に関する口頭試問も含みます。 保健体育専修においては、運動歴調査書により得意とするスポーツ競技の成績や、活動状況等の運動歴を通して、保健体育教員として必要な資質・適性である「学力」（専門的なスポーツ能力）を評価して、実技の得点に含めます。
志望理由書	総合Ⅱ	【小学校コース、特別支援教育専攻、養護教諭養成課程】 志望理由や活動実績等の内容から、①自己表現能力、②教職への目的意識、③教員としての適性・資質・能力、④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し、主に「意欲」を評価します。

医学部医学科

1) 医学部医学科が求める学生像

医学部医学科では、豊かな人間性と高度の医学知識に富み、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を的確に果たすことができる医師及び医学研究者の養成を目的としています。

そのような人材の養成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 医学教育を受けるに十分な素養で、入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- 他人を思いやるやさしさと社会性を持ちながら、高度で先端的な医療を地域社会と連携しながら実践してゆく行動力
- 生涯にわたり医師として医療・医学に貢献したいという明確な目的を持ち、何事にも前向きに取り組む、知的・人格的に成長していこうとする意欲

2) 入学志願者に求める学習の取組

- 医学を修めるために、理系科目だけでなく、英語や文系科目もしっかりと履修し、応用力を伴った総合的学力を身に付けておく必要があります。
- 将来、様々な医療職と連携し、多様なニーズに対応できる医療を実践するためには、コミュニケーション能力と協調性を身に付けておく必要があります。
- 医学・医療を取り巻く社会問題や地域の動向に関心を持ち、自ら積極的に学ぶ姿勢を身に付けておく必要があります。

3) 入学者選抜の基本方針

医学部医学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の成果を幅広く応用・展開し、様々な課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	○		
	教科・科目に係る個別テスト				
	個人面接				
総合型選抜Ⅱ	共通テスト	本学科のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価する観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。		○	○
	個人面接				
	総合論述				
学士編入学 (第2年次)	個人面接	修業年限4年以上の大学卒業レベルの学習の達成度及び様々な課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	○	○	
	TOEFL				
	教科・科目に係る個別テスト (基礎自然科学・数学)				

注) 一般選抜(前期)及び総合型選抜Ⅱの個人面接では、調査書及び志望理由書を参考資料とします。

注) 学士編入学(第2年次)の面接では、志望理由書を参考資料とします。

【別表2】選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜方法の内容と評価要素
個人面接	一般・前期	事前に提出される「志望理由書」を資料に用いて、志望理由、医療に対する関心、卒業後の進路等について、質疑応答を行うことにより、「行動力」、「意欲」を評価します。
	総合Ⅱ	
	学士編入学	
総合論述	総合Ⅱ	与えられた資料の内容を的確に捉え、課題を見出し、自身の考えの思考過程及び最終的結論に関して論述させます。自身の考えを論理的に構築・表現する力が求められます。資料の理解・解析・分析を通じて、課題解決に必要な論理的思考力と問題発見能力の他、医学分野における資質を以下の観点に基づき総合的・多角的に評価します。 1. 資料理解力：資料の本質を捉え、的確に解析する能力。 2. 問題発見能力：与えられた情報や状況から課題を見出し、それを適切に定義する能力。 3. 論理的思考力：課題に対する考えを論理的に構成する能力。 4. 分析力：資料や課題の要点を整理し、深く考察する能力。 5. 表現力：明確かつ説得力のある形で自身の考えを示す能力。
TOEFL	学士編入学	英語について、修業年限4年以上の大学卒業レベルの「学力」を評価します。
教科・科目に係る個別テスト (基礎自然科学・数学)	学士編入学	物理・化学・生物・数学の筆記試験を通して、修業年限4年以上の大学卒業レベルの「学力」を評価します。

医学部保健学科

1) 医学部保健学科が求める学生像

医学部保健学科では、保健医療の高度な知識及び技術を習得し、豊かな人間性と問題解決能力を備え、創造性、独創性と国際的視野を有し、社会で活躍できる人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 保健医療専門職となるための学修に必要な基礎的学力
- 将来、他の医療職者と協調しながら保健医療活動を実践するための行動力
- 向上心と研究心を基に、保健医療の実践者として社会に貢献する強い意欲

また、医学部保健学科の各専攻は、それぞれ次のような学生を求めます。

【看護学専攻】

- 人間や生命、健康に関心を持ち、看護専門職者として知的・人格的に成長しようとする意欲のある人
- 人間の尊厳を重んじ、人や社会、文化の多様性を認め、人と良好な関係を築くことができる人

【放射線技術科学専攻】

- チーム医療の一員として積極的にコミュニケーションを図り、他の医療技術者と互いに協力し合い、より良い医療を提供するための行動力のある人
- 医療を安全に行う能力を有し、生涯にわたり向上心・探究心を持ち続け、知的・人格的に成長しようとする意欲のある人

【検査技術科学専攻】

- 医療従事者としての自覚とチーム医療遂行のための協調性を持ち、鋭い観察力と洞察力ならびに応用力を備えて保健医療の発展のために積極的に行動できる人
- 自然科学、保健医療、臨床検査に強い関心を持ち、検査職を通して人々の健康維持・増進に積極的に取り組む意欲のある人

【理学療法学専攻】

- 他者と適切な関係を築きながら、様々な人たちと協働して、障害者等が抱える問題の解決に取り組む行動力を有する人
- 理学療法士として向上心・研究心を持って保健医療に取り組み、障害者等のリハビリテーションに貢献したいという強い意欲のある人

【作業療法学専攻】

- 作業療法の対象者の個別の価値観や生活を尊重し、対象者の希望に沿った作業活動を考えつつ実践するための行動力のある人
- チーム医療の一員として、他職種を尊重しながら、作業療法を積極的に実行する意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- 医療従事者は、高度な知識や技術が求められますので、高等学校においては履修するすべての教科についての幅広い知識が必要とされます。
- チーム医療の一員として医療に関わることも多いため、課外活動やボランティア活動も含めて積極的な取り組みを行う行動力を持っていることが望まれます。
- 研究心や探求心などに基づき、様々なことに関わる意欲や他者への思いやりを持つことが必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

医学部保健学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価するとともに、医療従事者としての資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	○		
	教科・科目に係る個別テスト				
	小論文（該当する専攻のみ）				
総合型選抜Ⅱ	共通テスト	本学科のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための基礎的学力、資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	○	○	○
	小論文				
	個人面接				
	調査書				
	志望理由書				

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜方法の内容と評価要素
小論文	一般・前期	日本の保健医療が現代社会で直面している課題等をテーマに自身の考えを記述させます。 日本語の文章力、論理的な表現力の観点から「学力」を評価します。また、様々な課題を多面的に把握し解決するための資質・能力の観点から「意欲」、「行動力」も評価します。
	総合Ⅱ	日本の保健医療が現代社会で直面している課題等をテーマに自身の考えを記述させます。 日本語の文章力、論理的な表現力の観点から「学力」を評価します。
個人面接	総合Ⅱ	自己PR、志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路、高等学校での学習や課外活動等について質疑応答を行います。 志望理由、専門分野に関する興味関心についての質疑応答の内容から「意欲」、課外活動・ボランティア活動についての質疑応答の内容から「行動力」を評価します。
調査書	総合Ⅱ	高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得などにより、主に「行動力」を評価します。
志望理由書	総合Ⅱ	志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について、これまでの勉強や様々な活動を通して得た経験を基に自分の考えを記入させます。 本学科に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「意欲」を評価します。

医学部心理支援科学科

1) 医学部心理支援科学科が求める学生像

医学部心理支援科学科では、科学的思考力を有し、こころの問題を感受し、その問題を解決できる能力や生命に対する高い倫理性と豊かな人間性を有し、悩める人に寄り添い、心理支援職としての役割を通して地域住民の健康と福祉に寄与し、社会に貢献する地域のリーダーとなる人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 心理支援職としての知識と技術を修得するのに必要な基礎学力
- 他職種と連携しチームの一員として心理支援活動を実践するための行動力
- 社会問題や地域の動向に関心を持ち、心理支援職として社会に貢献する強い意欲

2) 入学志願者に求める学習の取組

- 心理支援職は、高度な知識や技術が求められますので、高等学校においては履修するすべての教科についての幅広い知識が必要とされます。
- 他職種と連携しチームの一員として心理支援業務に関わることも多いため、課外活動やボランティア活動も含めて積極的な取り組みを行う行動力を持っていることが望まれます。
- 幅広い研究心や探求心などに基づき、社会問題や地域の動向に関心を持ち、自ら積極的に関わる意欲や他者への思いやりを持つことが必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

医学部心理支援科学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価するという観点から、知識・理解力・思考力・判断力・表現力について、共通テストと教科・科目に係る個別テストにより評価します。また、「意欲」、「行動力」については、志望理由書により評価します。これらの結果を総合評価して選抜します。	○		
	教科・科目に係る個別テスト				
	志望理由書				

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜方法の内容と評価要素
志望理由書	一般・前期	志望理由，入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について，これまでの勉強や様々な活動を通して得た経験を基に自分の考えを記入させます。 本学科に対する理解や，専門分野に対する強い興味・関心，主体的に学び続けようとする積極性などにより，「行動力」及び「意欲」を評価します。

理 工 学 部

1) 理工学部が求める学生像

理工学部では、変化する現代社会に対応できる幅広い視野と科学・技術の発展に貢献できる力を養うカリキュラムを提供することによって、自然の仕組みを探究する力、先端技術社会を支える科学を発展させ技術を創造する力、変化する現代社会が直面する課題を発見・分析・解決する力を養い、地域や国際社会に貢献する人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・専門教育の基礎となる理数系の学力、及び社会の中で専門的能力を活かすための基礎学力
- ・高等学校までに学習すべき課題に真摯に取り組むとともに、自らの個性や資質に合わせてその他の活動にも積極的に参加し、自らを成長させていく行動力
- ・専門を生かして新たな課題を見いだし、解決するために学び続ける意欲

また、理工学部の各学科は、それぞれ次のような学生を求めます。

【数物科学科】

(数数学型)

- ・数理科学への強い興味を持ち、数理科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・探究心が旺盛で豊かな数学的知識と自在な数理的応用力をもって社会に貢献する意欲のある人

(物理型)

- ・自然の基本原則に興味を持ち、物理学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・物質を構成しその性質を決定している量子の世界から広大な宇宙の世界までを支配している自然の基本原則を理解し、より深く探求することやその成果を社会へ還元することに意欲のある人

【物質創成化学科】

- ・化学物質の構造や化学反応の仕組みを物質の機能と結びつけて探求することに興味を持ち、化学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・自ら課題を見いだし、暮らしを豊かにする機能性物質や環境調和を指向した機能性材料を創成し、リサイクル、省資源、エネルギー創成技術等に関する諸課題を解決するための研究開発に意欲のある人

【地球環境防災学科】

- ・宇宙空間、大気・水圏、地質・岩石、地震・火山等を対象とした地球科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲を持つ人
- ・自ら課題を見いだし、地球に関する科学の深化や、地球環境問題の解決、自然災害の防止に貢献することに意欲のある人

【電子情報工学科】

- ・電子回路、電子材料、コンピュータとソフトウェア、通信ネットワーク、セキュリティ、組込みシステムなどの電子情報工学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ・電子情報工学の発展に強い関心を持ち、学んだことの成果を社会の様々な分野で活用することに意欲のある人

【機械科学科】

- 医用・福祉，環境・エネルギー，航空宇宙，輸送機械，ロボット，AI，ナノテクノロジーなどの機械科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- ものづくりに関する科学技術の発展に強い関心を持ち，失敗を恐れず継続してものごとに取り組む，学んだことの成果を社会の様々な領域で活用することに意欲のある人

【自然エネルギー学科】

- 自然や人間社会に深い興味を持ち，自然エネルギーに関する多様な分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人
- 地域に存在する自然エネルギー源を利用することや，その活用に意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- 理工学分野の学問を学ぶために必要な力として，論理的思考力，自然科学に関する基礎知識，表現やコミュニケーションの能力を身に付けておくことが必要です。
- 自ら課題を探究し，主体的に取り組む学習態度，新しい発見や創造的な活動に取り組むための行動力が必要です。また，他者と協働して学習や研究などに取り組むことができる行動力や学習態度が必要です。
- 困難な課題に対しても安易にあきらめることなく取り組み，やり遂げようとする意欲を持ち続けることが必要です。また，自然界の仕組みや社会を支える技術について日頃から興味を持ち，学習に自発的に取り組む態度が必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

理工学部では，前記の学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために，多面的・総合的な評価方法により，別表のとおり入学者を選考します。

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の選抜方法により総合的に評価して選抜します。	○		
	教科・科目に係る個別テスト				
一般選抜 (後期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の選抜方法により総合的に評価して選抜します。	○		
	教科・科目に係る個別テスト				
総合型選抜Ⅰ	講義の実施とその内容に関するレポート	本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力や適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の選抜方法により総合評価して選抜します。	○	○	○
	個人面接				
編入学入試 (第3年次) 推薦	個人面接	本学部のカリキュラムに基づく専門科目の学習を主体的に進めていくための資質・能力や適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の選抜方法により総合評価して選抜します。 なお、個人面接においては、基礎学力に関する試問を含みません。	○	○	○
	調査書				
	志望理由書				
	推薦書				
編入学入試 (第3年次) 一般	個人面接	本学部のカリキュラムに基づく専門科目の学習を主体的に進めていくための資質・能力や適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の選抜方法により総合評価して選抜します。	○	○	○
	調査書又は成績証明書				
	志望理由書				

注) 総合型選抜Ⅰの個人面接では、調査書及び志望理由書を参考資料とします。

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜方法の内容と評価要素
講義の実施とその内容に関するレポート	総合Ⅰ	学部において実施する講義に、能動的に対応するために必要な「学力」及び「行動力」を評価します。
個人面接	総合Ⅰ	志望動機、入学後の履修計画、卒業後の見通しなどに関する総合的な質疑により、「意欲」及び「行動力」を評価します。 また、総合型選抜Ⅰ及び編入学入試一般では、基礎学力に関する試問において、学部のカリキュラムに基づく学習を進めるために必要な「学力」を評価します。 なお、編入学入試推薦においては、基礎学力に関する試問を含みません。
	編入学	
調査書又は成績証明書	編入学	これまでの学習に対する取組状況から、「行動力」の評価を行います。また、3年次以降の履修に対応する「学力」についても評価します。
志望理由書	編入学	志望理由と理工学部のアドミッション・ポリシーとの整合性から、「意欲」に関する評価を行います。
推薦書	編入学	これまでの学習に対する取組や学習意欲に関する客観評価から、「意欲」及び「行動力」の評価を行います。

農学生命科学部

1) 農学生命科学部が求める学生像

農学生命科学部では、農学と生命科学分野の基礎的・専門的な知識を身につけ、課題探求・問題解決能力を備えた専門技術者・研究者として活躍でき、創造性と主体性をもって地域はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することを目的としています。この目的のため、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 入学後に修める教養教育や、農学及び生命科学の各分野の専門教育に必要な基礎学力（高等学校の教科全般、特に理科、英語、数学）
- 農学及び生命科学を通して国際社会や地域社会に参画しようとする行動力
- 農学と生命科学に興味を持ち、これらの基礎的・専門的な知識を継続的に学びたいとする意欲

また、農学生命科学部の各学科は、それぞれ次のような学生を求めます。

【生物学科】

- 生物学の遺伝子レベルから生態系レベルにわたる様々な基礎的知識や応用的知識を、実社会への参画をみすえ、積極的に身に付けようとする行動力を持つ人
- 生物学に強い興味を持ち、動植物の生命現象の解析を通じて、生物の基礎的現象の仕組みや生物が持つ多様性、適応戦略、進化のメカニズムの解明に意欲のある人

【分子生命科学科】

- 分子レベルでの生命現象の理解や知識を活用した産業（例えば、医薬品、食品、化学工業など）及び学問分野で活躍しようとする行動力を持つ人
- 生命現象の仕組みや機能に興味を持ち、高校で学習した生物や化学の知識を基に分子レベルでこれを理解し、さらに追求する意欲のある人

【食料資源学科】

- バイオテクノロジー、食品科学、作物生産環境について目的意識を持って学ぶことができ、これらの研究を積極的に行うことができる行動力を持つ人
- 学びの中から様々な課題を自ら見だし、解決する力を養い、学修後にそれを食料生産や食品産業に役立てようとする意欲のある人

【国際園芸農学科】

- 地域農業の活性化や国際的な展開に取り組む行動力を持つ人
- 農業生産の技術とその原理を学ぶことに意欲のある人
- 食と農の経済を学ぶことに意欲のある人

【地域環境工学科】

- 自立した農業土木技術者として、社会的責任を自覚し、自主的継続的に学修し、多様な人々と協働し、国内外の地域社会に参画していこうとする行動力を持つ人
- 数学や物理学などの自然科学に関する工学基礎知識を身に付け、水・土・農業土木関連施設や農村・山間地に関わる総合的な工学知識を習得した農業土木技術者を目指し、国内外の地域社会の問題解決や発展に貢献しようとする意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- 農学及び生命科学の各分野の教育を受けるために必要な基礎学力だけではなく、論理的思考力、読解力、記述能力などの修得が必要です。
- 自分自身の考えを持ち、様々な課題に立ち向かい、解決する行動力を身に付けておく必要があります。
- 実験室のみならずフィールドでの学習・研究活動を自主的かつ積極的に取り組む意欲が必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

農学生命科学部では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

【別表 1】 入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般選抜 (前期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の選抜方法により総合的に評価して選抜します。	○		
	教科・科目に係る個別テスト				
一般選抜 (後期)	共通テスト	高等学校卒業レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の選抜方法により総合的に評価して選抜します。	○		
	教科・科目に係る個別テスト				
総合型選抜Ⅰ	小論文	本学部のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力や適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の選抜方法により総合的に評価して選抜します。	○	○	○
	個人面接				
編入学入試 (第3年次)	個人面接	本学部のカリキュラムに基づく専門科目の学習を主体的に進めていくための資質・能力や適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の選抜方法により総合的に評価して選抜します。	○	○	○
	編入学願				
	成績証明書				

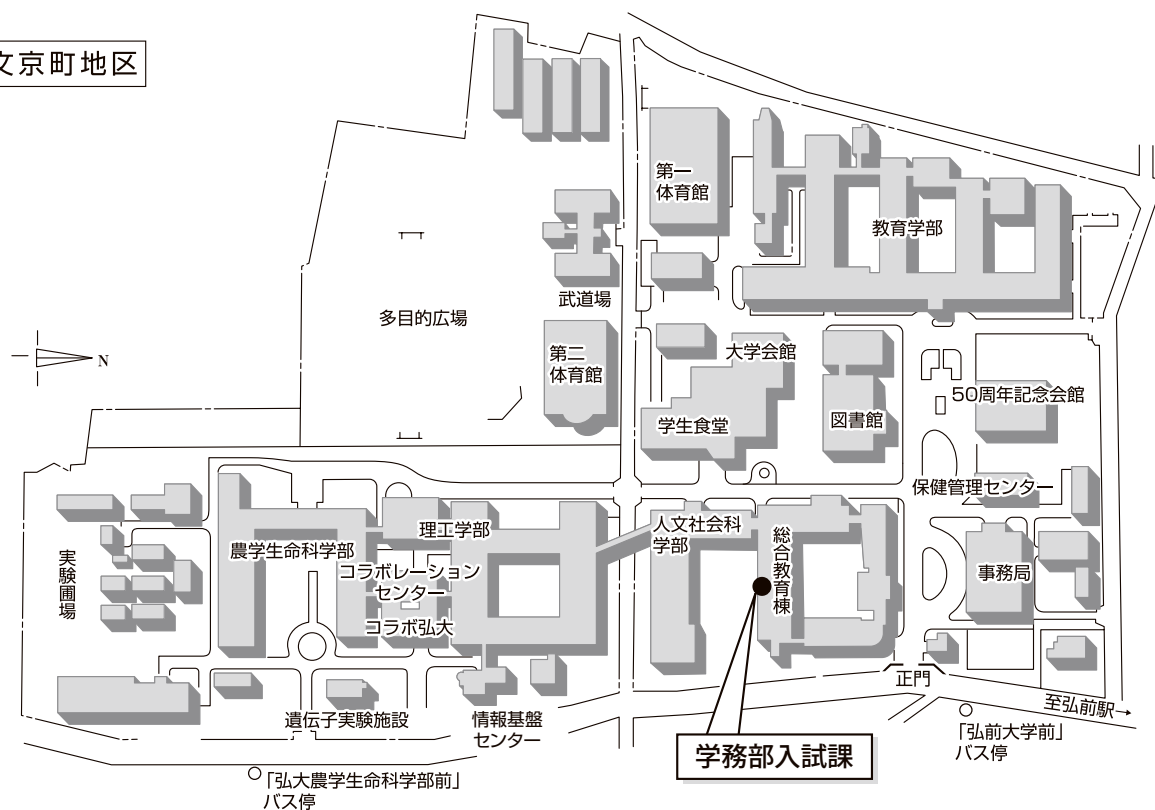
注) 総合型選抜Ⅰの個人面接では、調査書及び志望理由書を参考資料とします。

【別表 2】 入学者選抜方法の内容と評価要素

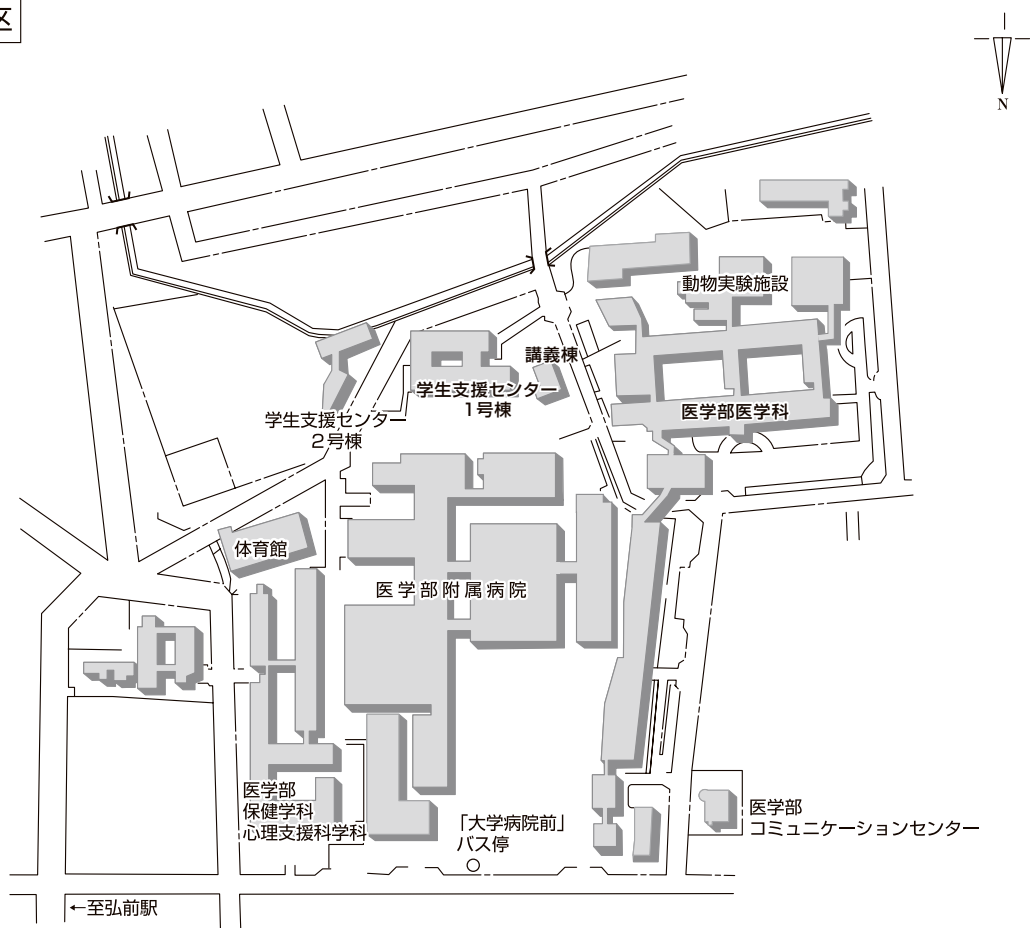
選抜方法	選抜区分	選抜方法の内容と評価要素
小論文	総合Ⅰ	農学や生命科学などに関連するいくつかのテーマについて論述させます。論理的思考力、読解力、記述能力などにより、「学力」を評価します。
個人面接	総合Ⅰ	志望理由、興味・関心がある研究分野、入学前の学習などへの取組状況、将来への展望などに関する総合的な質疑により、「行動力」及び「意欲」の評価を行います。総合型選抜Ⅰでは、調査書と志望理由書をこれらの評価の参考資料として用います。
	編入学	また、総合型選抜Ⅰでは、基礎学力に関する試問において、学部のカリキュラムに基づく学習を進めるために必要な「学力」を評価します。 なお、編入学入試では、試問により、3年次以降の履修に対応するために必要な「学力」を評価します。
編入学願	編入学	本学部に対する理解、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などから、「行動力」及び「意欲」を評価します。
成績証明書	編入学	教養科目や専門科目の成績により、3年次以降の履修に対応する「学力」を評価します。

■ 弘前大学キャンパス略図

文京町地区



本町地区



【問合せ先一覧】

内 容	担当部署	連 絡 先
入学試験全般に関すること	学務部入試課	0172-39-3122 (FAX) 0172-39-3125
検定料の支払い及び返還に関すること		
入学手続に関すること		
入学料、授業料の免除等に関すること	学務部学生課	0172-39-3117
奨学金に関すること		
学生寮に関すること		0172-39-3107
授業料の口座振替に関すること	財務部財務管理課	0172-39-3043
カリキュラム、資格取得等に関すること (注) 右欄の学部に係る入学試験に関することは、 学務部入試課へお問い合わせください。	人文社会科学部	0172-39-3940
	教育学部	0172-39-3939
	理工学部	0172-39-3930
	農学生命科学部	0172-39-3752
入学試験に関すること カリキュラム、資格取得等に関すること	医学部医学科	0172-39-5204 0172-39-5236 (入試)
	医学部保健学科	0172-39-5911
	医学部心理支援科学科	

試験時の宿泊やチケット予約 アパート紹介等、大学生活準備に関すること	 弘前大学生協同組合 受験生・新入生サポートサイト https://newlife.u-coop.or.jp/hirosaki/
---------------------------------------	---

【所在地一覧】

部署名	所在地
学務部入試課、学務部学生課、財務部	〒 036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地
人文社会科学部	
教育学部	
理工学部	〒 036-8561 青森県弘前市文京町 3 番地
農学生命科学部	
医学部医学科	〒 036-8562 青森県弘前市在府町 5 番地
医学部保健学科	
医学部心理支援科学科	〒 036-8564 青森県弘前市本町 66 番地 1 号



弘前大学公式ホームページ
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前大学入試情報ホームページ
<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>



特設サイト (合格者発表, 出願状況, 試験当日の連絡)
<https://sp-nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>